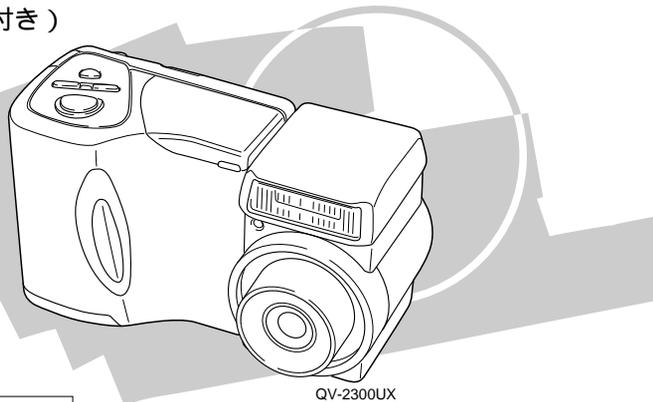
Z

液晶デジタルカメラ

QV-2300UX / QV-2800UX

取扱説明書（保証書付き）

ごあいさつ

このたびはカシオ製品をお買上げ頂き、まことにありがとうございます。
本機は、撮影した内容をその場で見ることができる液晶カラーモニターを備えた、コンパクトタイプの液晶デジタルカメラです。本機をご使用になる前に、必ず、別紙の「安全上のご注意」をお読みになり、本書とともにお読みになった後も、大切に保管してください。

QV-2300UX

この取扱説明書はQV-2300UXをもとに制作されています。QV-2800UXについてはQV-2300UXとの相違点のみ記載されています。

CASIO

はじめに

付属品の確認

箱を開けたら、まず下記の付属品が全部そろっているかどうかをご確認ください。もし、付属品が全部そろっていなかった場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

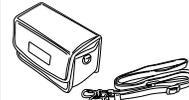
デジタルカメラ本体

• QV-2300UX

• QV-2800UX

ソフトケース

• QV-2300UX

• QV-2800UX

レンズキャップ／キャップホルダー

• レンズキャップは出荷時にデジタルカメラ本体に装着されています。

アルカリ電池（単3形× 4）

ストラップ

CD-ROM

専用ビデオコード

取扱説明書

取扱説明書
（保証書付き）

専用ソフト取扱説明書
（インストール編）

目次

応用撮影　56

再生する　78

消去する　83

画像の管理について　86

その他の設定について　91

他の機器との接続　92

付録　109

早わかりガイド

準備をする

1

電池を入れます。（30ページ）

2

メモリーカードを入れます。（36ページ）

3

日時設定をします。（41ページ）

再生する（詳細は78ページ参照）

画像を消す（詳細は83ページ参照）

あらかじめご承知いただきたいこと

- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部又は全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できません。
- 万一、本機使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 故障、修理その他の理由に起因するメモリー内容の消失による、損害および逸失利益等につきまして、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- デジタルカメラを使って撮影したものは、個人として使用するほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（ＶＣＣＩ）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本文中の以下の用語は、それぞれ各社の商標です：

- Windows、およびInternet Explorerは米国マイクロソフト社の商標です。
- Macintoshは米国アップルコンピューター社の商標です。
- CompactFlash、コンパクトフラッシュ、ロゴは米国SanDisk社の商標です。
- IBMは米国IBM社の商標です。
- USBドライバはPhoenix Technologies社のソフトウェアを使用しています。
  Compatibility Software Copyright © 1997
  Phoenix Technologies Ltd., All Rights Reserved.
- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標および商標です。

本機の特徴

こんな特徴があります

- 高画質211万画素CCD搭載
- 液晶モニターに1.8型TFT型低反射カラー液晶（HAST）搭載
- 12倍ズーム搭載:光学ズーム3倍／デジタルズーム4倍(QV-2300UX)
  32倍ズーム搭載:光学ズーム8倍／デジタルズーム4倍(QV-2800UX)
- レンズ部が回転
  ローアングル、ハイアングルでの撮影が楽に行なえます。また、自分自身を撮影するのも簡単です。
- 外部フラッシュ接続可能（QV-2800UX）
- メモリーカードとしてコンパクトフラッシュカード（CF TYPE I / II）とマイクロドライブに対応
- DPOF（Digital Print Order Format）対応
  カメラでプリントしたい画像を指定。DPOF対応のプリンターで簡単にプリントアウトができます。また、DPOF対応のサービスラボでもプリントの注文ができます。
- DCF（Design rule for Camera File system）対応
  DCF規格対応の他社のデジタルカメラやプリンターなどと画像の互換性があります。
- ビデオ出力端子搭載
  撮影した画像を簡単にご家庭のテレビでご覧いただけます。
- USB接続対応
  パソコンに簡単にデータを取り込むことができます。
- カードブラウザ（HTMLファイル）機能搭載
  撮影画像をパソコンで一覧表示できます。

- 撮影した画像をパソコンで管理、活用できるソフトが付属
  パソコンリンクソフトPhoto Loader、パノラマ画像編集ソフトPanorama Editor, ブラウザソフトInternet Explorer、電子メールソフトOutlook Express、動画再生ソフトQuickTime、PDFファイル閲覧ソフトAcrobat Readerが付属のCD-ROMに収録されています。

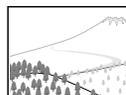
こんな機能もあります

◆人物を浮き立たせて撮影（ポートレートモード）

（56ページ）

◆被写体や撮影意図に合った設定を簡単設定(シーン撮影モード）

（58ページ）

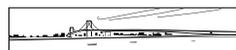
◆風景をクッキリと撮影（風景モード）

（56ページ）

◆動画を撮影（ムービーモード）

（60ページ）

◆夜景を鮮やかに撮影（夜景モード）

（57ページ）

◆10枚の画像を合成してパノラマ撮影（パノラマモード）

（61ページ）

◆一定時間毎に撮影（インターバルモード）

（62ページ）

◆各種露出モードの選択が可能（4通り）

プログラムAE、絞り優先AE、シャッター速度優先AE、マニュアル露出　（64〜68ページ）

◆各種測光方式の選択が可能（3通り）

マルチパターン測光、中央重点測光、スポット測光　（68〜69ページ）

◆各種フォーカスモードの選択が可能（4通り）

オートフォーカス、マクロ、無限遠、マニュアル　（49〜51ページ）

使用上のご注意

データエラーのご注意

- 本機は精密な電子部品で構成されており、以下のお取り扱いをすると内部のデータが破壊される恐れがあります。

  － 記録､通信中に電池をはずしたり､ACアダプターをはずした
  － 撮影中などにメモリーカードを抜いた
  － 電源をOFFにしたときに【動作確認用ランプ】が点灯している状態で電池やACアダプターを抜いた、【メモリーカードカバー】を開けた、メモリーカードを抜いた
  － 通信中のケーブルはずれ
  － 消耗した電池を使用し続けた
  － その他の異常操作

このような場合、次の表示が出ましたら、画面に対応したご処置をお願いいたします。

- メモリーカードが異常です
- フォーマットされていません

➡ 画面に表示されるメッセージとその対処方法。（118ページ）

使用環境について

- 使用できる温度の範囲は、0℃〜40℃です。
- 次のような場所には置かないでください。
  － 直射日光のあたる場所、湿気やホコリの多い場所
  － 冷暖房装置の近くなど極端に温度、湿度が変化する場所
  － 日中の車内、振動の多い場所

結露について

- 真冬に寒い屋外から暖房してある室内に移動するなど、急激に温度差の大きい場所へ移動すると、本機の内部や外部に水滴が付く（結露）ことがあります。結露は故障の原因になりますので、ご注意ください。結露を防ぐには、温度差の大きな場所の間を移動する前に、本機をビニール袋で密封しておき、移動後に本機を周囲の温度に充分慣らしてから取り出して、電池ブタを開けたまま数時間放置してください。

蛍光管について

- 液晶画面のバックライトに使用されている蛍光管には寿命があります。液晶画面が暗くなったり、チラつく場合は、最寄りのカシオテクノ・サービスステーション（123ページ）までご連絡ください。有償にてお取り替え致します。蛍光管の寿命は、一日2時間のご使用で約6年間です。
- 低温でご使用の場合は、バックライトが点灯するまでに時間がかかったり、赤味を帯びることがありますが、故障ではありません。しばらくすると正常に戻ります。

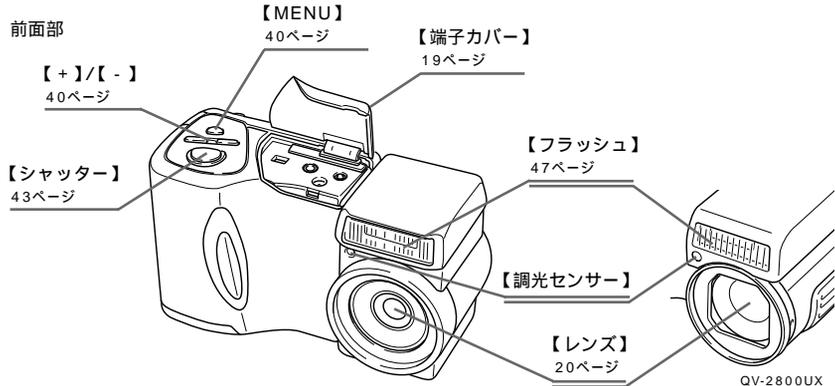
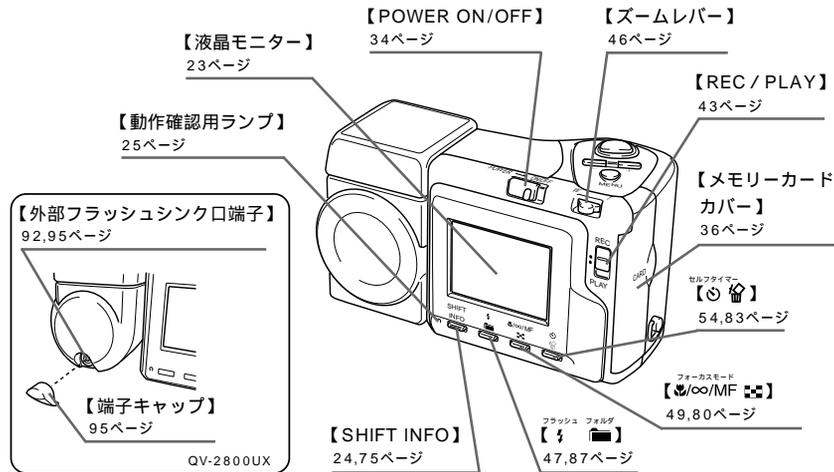
準備

初めてご使用になるかたはここからお読みになり、撮影前の準備を行なってください。

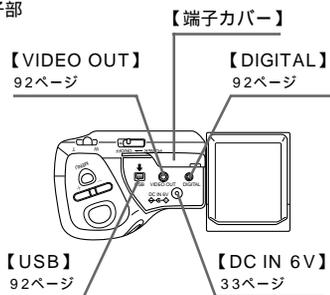
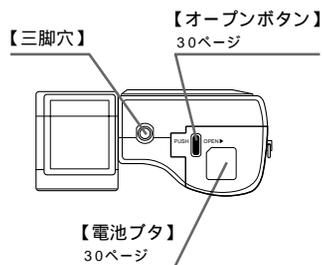
各部の名称

この取扱説明書中では、本機の各部の名称は以下の【　】内の呼びかたを使います。スイッチやボタンなどの場所がわからなくなった場合は、こちらをご参照ください。

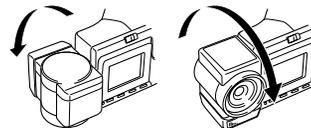
前面部

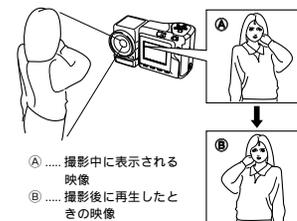
後面部

端子部

端子カバーの開きかた

底面部

レンズについて

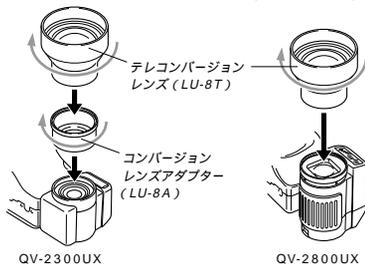
本機の【レンズ部】は回転する構造になっており、自由なアングルで被写体をとらえることができます。

アングルを変える

- 【レンズ部】を手前に回転させた場合は、【液晶モニター】に表示される映像は反転し鏡像（左右が逆の映像）となります。この状態で撮影を行なった場合、再生した映像は正像に戻ります。

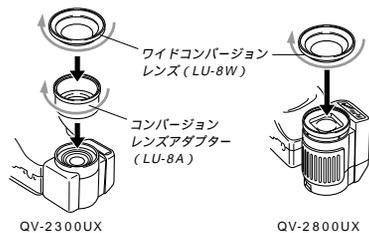
Ⓐ ..... 撮影中に表示される映像
Ⓑ ..... 撮影後に再生したときの映像

重要!
- 【レンズ部】は、回転範囲を越えて無理に回そうとしないでください。無理な力が加わると、【レンズ部】が折れるなど破損する恐れがあります。
- 本機の保管時は、【レンズ部】は元の状態に戻しておいてください。
  ＊レンズを正面に向け、本体に対して傾きのない状態(QV-2300UX)
  ＊レンズを上に向けている状態(QV-2800UX)
- レンズを下向きに伏せて置かないでください。レンズの周りのリングが曲がることがあります。
- 撮影時以外はレンズキャップを取り付けて保管してください。

コンバージョンレンズの取り付け

本機のレンズにはネジきりがあり、QV-2300UXは別売のコンバージョンレンズアダプター（LU-8A）を利用することで、別売のコンバージョンレンズや市販のフィルターを取り付けることができます。QV-2800UXは、コンバージョンレンズアダプターを使用せずに直接取り付けることができます。コンバージョンレンズを取り付けることにより、焦点距離を延長、もしくは短縮し、さらに望遠または広角にすることができます。

- テレコンバージョンレンズ　LU-8T　：倍率1.5倍
  取り付け時撮影可能距離　：約1m〜∞（QV-2300UX）
  約2.5m〜∞（QV-2800UX）

QV-2300UX　　QV-2800UX

- ワイドコンバージョンレンズ　LU-8W　：倍率0.7倍
  取り付け時撮影可能距離　：約1cm〜∞
  （QV-2300UX/QV-2800UX）

QV-2300UX　　QV-2800UX

重要!
- QV-2300UXではコンバージョンレンズやフィルターを使用するときは必ずコンバージョンレンズアダプターを使用してください。コンバージョンレンズアダプターを使わないと、せり出したレンズがコンバージョンレンズやフィルターに当たり故障の原因となります。
- コンバージョンレンズ使用時はフラッシュ撮影ができません。

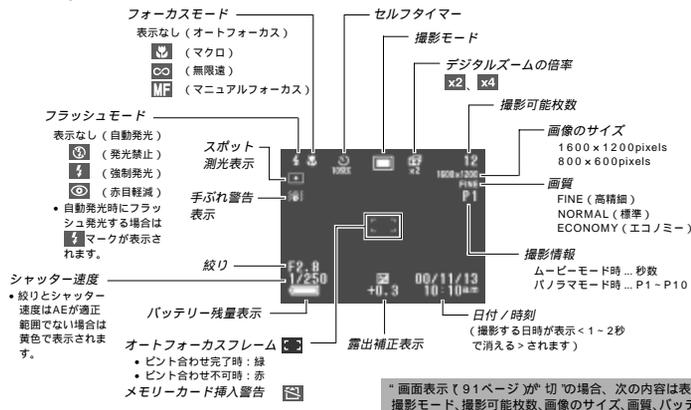
- テレコンバージョンレンズはズームを広角側にして使用するとケラレ（フィルターの枠などで光線がさえぎられることによる黒い影）が生じますので、望遠側でご使用ください。
- テレコンバージョンレンズ使用時は手ぶれが発生しやすいので、必ずコンバージョンレンズに付属の三脚用ステーと市販の三脚をご使用ください。
- ワイドコンバージョンレンズは性質上、画像に歪みを生じることがあります。ご注意ください。
- ワイドコンバージョンレンズ使用時は、必ずフォーカスモードを（マクロモード）に切り替えてください。他のフォーカスモードではピントが合いません。
- マクロモード時は光学ズームの制限があります。
  ※ 1倍に固定（QV-2300UX）
  ※ 1〜1.6倍の範囲でズーム可能（QV-2800UX）
- フィルターによっては次のようなことがあります。ご確認のうえご購入ください。
  ※ 画面の周辺にケラレ（フィルターの枠などで光線がさえぎられることによりできる黒い影）が生じる。
  ※ オートフォーカス、およびフラッシュの性能が十分に発揮できない。
  ※ 銀塩カメラと同様の効果が得られない。
- フィルターを2枚以上重ねて使用しないでください。
- 市販のレンズフードを使用するとフラッシュが正常に発光しません。

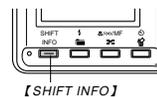
レンズについてのご注意

- レンズ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮されませんので、レンズ面には触れないでください。レンズ面の汚れは、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- QV-2300UXでは、沈胴式レンズを採用しています。電源の入／切やズーム操作などにより、レンズが移動しますので、無理な力を加えたり、レンズを下向きに伏せて机などの上に置かないでください。また、撮影をするときはレンズキャップをはずしてから電源を入れてください。レンズキャップを取り付けたままRECモードで電源を入れると【液晶モニター】に"LENS CAP!"と表示されたあと自動的に電源が切れます。レンズキャップをはずしてから再度電源を入れ直してください。
- QV-2300UXでは、レンズが飛び出している状態で電池やACアダプターを抜かないでください。レンズが収納されず、故障の原因となります。

液晶モニターの表示内容

【液晶モニター】にさまざまな情報が表示されます。

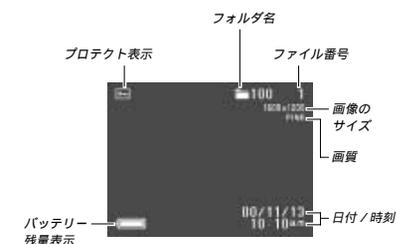
RECモード時

"画面表示"（91ページ）が"切"の場合、次の内容は表示されません。
撮影モード、撮影可能枚数、画像のサイズ、画質、バッテリー残量表示

● 【SHIFT INFO】を押したとき

【SHIFT INFO】

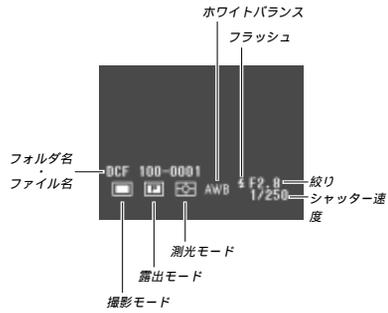
測光方式
（マルチ）
（中央重点）
（スポット）

ホワイトバランス
AWB（オート）
（太陽光）
（日陰）
（電球）
（蛍光灯）
MWB（マニュアル）

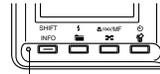
露出モード
P（プログラムAE）
A（絞り優先AE）
S（シャッター速度優先AE）
M（マニュアル露出）

PLAYモード時

"画面表示"（91ページ）が"切"の場合は表示されません。

● 【SHIFT INFO】を押したとき

ホワイトバランス
フラッシュ
フォルダ名・ファイル名
DCF 100-0001 AWB F2.8 1/250
絞り
シャッター速度
測光モード
露出モード
撮影モード

重要! • 本機以外で撮影された画像に対しては正常に表示されない場合があります。

動作確認用ランプについて

動作確認用ランプの点灯のしかたによってカメラの状態を知ることができます。

【動作確認用ランプ】

RECモード時

ランプの色	点灯	点滅
緑	ピント合わせ完了	起動中
	スリープ中	メモリーカード記録中
		動画取込み中
		セルフタイマーのカウントダウン中
		電池警告
		メモリーカードフォーマット中
		電源オフ中
オレンジ	露出警告	フラッシュ充電中
赤	ピント合わせ不可	メモリーカードエラー
	メモリーフル	メモリーカード未フォーマット
	記録エラー	フラッシュ充電不可

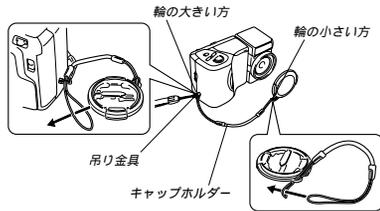
※ 消灯は撮影可能を意味します。

PLAYモード時

ランプの色	点灯	点滅
緑	−	起動中
		消去中
		プロテクト実行中
		DPOF設定実行中
		電池警告
		メモリーカードフォーマット中
		電源オフ中
赤	−	メモリーカードエラー
		メモリーカード未フォーマット
		メモリーカード無し

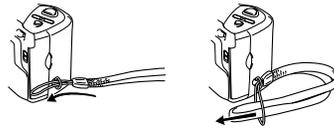
付属品の使いかた

レンズキャップの取り付けかた

本機をご使用にならないときは、必ずレンズキャップを取り付けてください。本機の電源を切り、レンズが本体に引き込まれた状態でレンズキャップを取り付けてください。（QV-2800UXのレンズは本体に引き込まれません。）

• レンズキャップをキャップホルダーで吊り金具につなぎ止めることで紛失防止ができます。

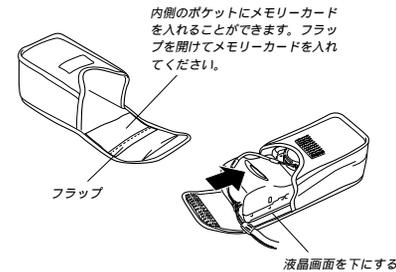
重要! • QV-2300UXは、レンズキャップをレンズに取り付けたままで電源を入れないでください。

ストラップの取り付けかた

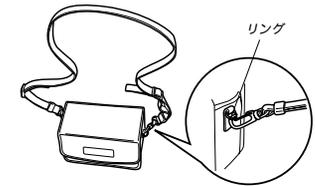
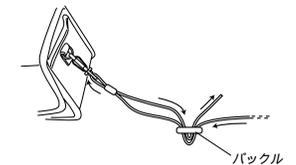
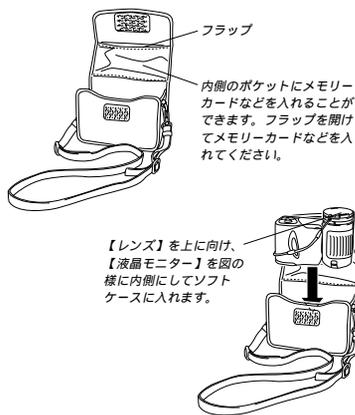
ストラップは、図のように吊り金具に取り付けます。

重要! • 本機操作時は落下を防止するため、必ずストラップに手を通した状態で使用してください。
• 付属のストラップは本機専用です。他の用途に使用しないでください。
• ストラップを持って本機を振り回さないでください。

ソフトケースの使いかた

ご使用にならないときは、本機を付属のソフトケースに入れて保管してください。

■QV-2300UX

重要! • ソフトケースには本機以外は入れないでください。

■QV-2800UX

ソフトケース用ストラップは、図のようにソフトケースのリングに取り付けます。

ソフトケース用ストラップの長さは、ソフトケース用ストラップのバックル部分で調節してください。

重要!
- 付属のソフトケース用ストラップは本機のソフトケース専用です。他の用途に使用しないでください。
- ソフトケース用ストラップを持って本機を振り回さないでください。
- ソフトケース用ストラップを首にかけたまま本機を固定しないで持ち運ぶと、本体に衝撃を与えたり、ドアに挟まったりして、故障やケガの原因となりますのでご注意ください。
- 本機は、幼児の手の届かないところへ保管してください。誤ってソフトケース用ストラップが首に巻きつくなど、事故発生の恐れがあります。

重要! • ソフトケースには本機以外は入れないでください。

電源について

本機は下記のいずれかの電源が利用できます。単3形アルカリ電池以外は別売品です。

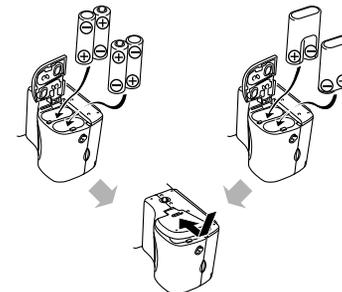
- 電池
  単3形アルカリ電池LR6：4本
  単3形リチウム電池FR6：4本
  リチウム電池パックCR-V3P：2個
  単3形ニッケル水素蓄電池NP-H3：4本
- 家庭用電源
  ACアダプター：AD-C620J
  ACアダプターチャージャー：BC-3HA

電池を使う

電池交換の際は、電源を切った状態で行なってください。

1. **本体底面の【電池ブタ】の【オープンボタン】を押しながら矢印の方向にスライドさせ、フタを開きます。**

2. **電池を図のようにセットした後、【電池ブタ】を矢印の方向へ押しつけながら、スライドして閉めます。**

- 単3形電池の場合
- リチウム電池パックの場合

重要!
- マンガン電池は使用できません。必ず単3形の指定電池、または指定のリチウム電池パックをご使用ください。
- リチウム電池パックの装填は正しく行なってください。間違った向きには入らないように設計されていますが、無理に入れようとすると故障の原因となります。

■電池持続時間の目安

下記の電池持続時間は、標準温度（25℃）で使用した場合の電源が切れるまでの目安であり、保証時間、または保証枚数ではありません。低温下で使うと、電池持続時間が短くなります。

使用電池	連続再生時間	連続撮影時間（撮影枚数）
単3形アルカリ電池LR6	約180分	約100分(約600枚)
単3形リチウム電池FR6	約300分	約200分(約1200枚)
リチウム電池パックCR-V3P	約380分	約260分(約1560枚)
単3形ニッケル水素蓄電池NP-H3	約180分	約120分(約720枚)

- 測定条件
  標準温度（25℃）／連続撮影／フラッシュ非点灯／
  1枚撮影毎に光学ズームをテレ端〜ワイド端に1回動作させる
- 使用電池
  単3形アルカリ電池LR6　　：松下電池工業（株）製
  単3形リチウム電池FR6　　：富士写真フイルム（株）製
  リチウム電池パックCR-V3P：松下電池工業（株）製
  ※ 電池持続時間は電池メーカーによって異なります。

- 仮に上記条件で1分毎に1枚ずつ撮影した場合、上記数値の約1/6になります。
- フラッシュやズームなどの使用頻度や電源が入った状態の時間により、撮影時間または枚数は大幅に異なる場合があります。
- 各電池の特性の違いからバッテリー残量表示の変化のスピードも各々で異なります。

■電池を長持ちさせるために

- フラッシュを使用しないで撮影するときは、【⚡ 】を押して🚫（発光禁止）に設定してご使用いただくと電池持続時間が長くなります。
- オートパワーオフ機能やスリープ機能（35ページ）を使用することにより、電源の切り忘れなどのむだな電力消費をおさえることができます。

■電池特性による注意事項（アルカリ電池について）

アルカリ電池の持続時間は、メーカーや保存期間、使用温度、撮影条件により大きく異なります。通常ご使用になる場合、アルカリ電池よりも持続時間の長いニッケル水素電池やリチウム電池のご使用をおすすめいたします。

例1： 断続的に使用した場合は、電池持続時間は短くなります。

- 条件 ： 常温（25 ℃）
  1分毎にズームを1.5往復、フラッシュを発光し1枚ずつ、10分間撮影 → 1分間再生 → 9分間電源を切る。この操作を繰り返す。
- 撮影時間約60分／撮影枚数約55枚

例2： 低温下で使用した場合、電池持続時間は短くなります。

- 条件 ： 低温（0 ℃）
  1分毎にズームを1.5往復、フラッシュを発光し1枚ずつ、10分間撮影 → 1分間再生 → 9分間電源を切る。この操作を繰り返す。
- 撮影時間約12分／撮影枚数約11枚

■リチウム電池パック（CR-V3P）のご利用について

この電池は、デジタルカメラなどの大容量の電流を必要とする機器向けに新たに開発されたものです。ご使用にあたっては、以下の説明をよくお読みください。なお、この電池に関する詳細仕様、販売店等に関しては以下へお問い合わせください。

松下電器産業株式会社　お客様ご相談センター
フリーダイヤル　0120-878-365（**受付時間** 9:00〜20:00）

- 従来のアルカリ電池やリチウム電池に比べて容量が非常に大きいため、長時間の連続使用が可能です。
- 温度特性に優れており、低温時にも安定した電力を供給できます。
- 保存特性に優れており、長時間放置しておいても自己劣化が非常に少なく安定しています。

重要!
- ご使用になる前に、電池本体や包装に記載されている注意事項をよくお読みください。
- 電池には安全装置が設けられていますが、容量が大きいため、金属によるショート等には充分注意してください。
- 放電特性の違いから、カメラでのバッテリー残量表示の減りかたが他の電池の場合と異なることがあります。

■充電式電池のご利用について

充電式電池は、別売のニッケル水素電池（NP-H3）をお使いください。他の充電式電池については動作保証いたしかねます。

ACアダプターチャージャー　　　　：BC-3HA
ニッケル水素蓄電池／急速充電器セット：BC-1HB4
ニッケル水素蓄電池（4本セット）　：NP-H3P4

重要!
- 電池は、必ず同じ製品を4本セットでご使用ください。違う種類の電池や、充電状態の異なる電池を組み合わせてご使用になると、電池寿命を短くしたり、カメラの故障の原因となります。
- 本機では充電できません。

■電池使用時の注意事項

禁止

●電池は使いかたを誤ると液もれによる周囲の汚損や、破裂による火災、けがの原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。
- 極性(⊕と⊖の向き)に注意して正しく入れてください。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の違う電池を混ぜて使用しないでください。
- 本機で指定されている電池以外は使用しないでください。

●電池は、充電や分解、ショートする恐れのあることはしないでください。また、加熱したり火の中へ投入したりしないでください。

●使えなくなった電池は漏液して故障の原因となりますので、すぐに取り出してください。

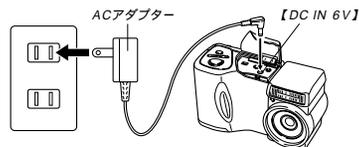
- 2週間以上使用しないときは、取り出しておいてください。
- 電池が消耗してくると熱を持ちますが故障ではありません。

■バッテリー残量表示

電池が消耗すると【液晶モニター】に表示されているバッテリー残量表示が下記表のように変化します。[icon]、[icon]の状態で使用し続けると、自動的に電源が切れます。速やかにすべて新しい電池と交換してください。

電池残量	多 ←――――――→ 少
画面情報表示	→ → →

家庭用電源を使う

家庭用電源から電源を取るには次のアダプターをご使用ください。

- ACアダプター：AD-C620J（別売）

※ この製品は米国などAC100～120Vの電源地域への旅行の際は、そのままご使用になれます。

- ACアダプターチャージャー：BC-3HA（別売）

※ この製品はACアダプターの機能と、単3形ニッケル水素蓄電池の充電機能を備えています。また、単3形ニッケル水素蓄電池が4本同梱されています。

※ この製品はAC100～240Vの電源に対応しており、海外への旅行の際もご利用になれます。海外でのご使用では、各地域に合った市販の電源コードをお買い求めください。

■ACアダプター使用時の注意

禁止

●表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・故障・感電の原因となります（ACアダプターは別売本機専用をご使用ください）。

●ACアダプターの電源コードを傷つけたり、破損したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したりしないでください。電源コードが破損し、火災・事故・感電の原因となります。

●ACアダプターのコードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。火災・故障・感電の原因となります。

●濡れた手でACアダプターを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

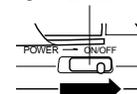
●タコ足配線をしないでください。火災・故障・感電の原因となります。

●万一、ACアダプターの電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）、販売店またはカシオテクノ・サービスステーションに修理をご依頼ください。そのまま使用すると火災・故障・感電の原因となります。

- ACアダプターを抜き差しする際は、必ず本機の電源を切った状態で行なってください。
- 本機に電池をセットした状態でACアダプターを使う場合でも、電源を入れたままACアダプターの抜き差しをするのはおやめください。電源を入れたままACアダプターの抜き差しを行なうと製品保護のために本機の電源は一度切れますが、保護しきれずに故障の原因となります。
- ACアダプターは、長時間ご使用になりますと若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- ご使用にならないときは、ACアダプターをコンセントから必ずはずしてください。
- ACアダプターのプラグを差し込むと、電池よりもACアダプターが優先されます。
- パソコンと接続する際は、ACアダプターをお使いください。

電源を入れる／切る

電源の入／切は【POWER ON/OFF】で行ないます。
【POWER ON/OFF】を一方向へスライドさせるごとに、電源の入／切が替わります。電源が入ると液晶モニターに画像やメッセージが表示されます。

【POWER ON/OFF】

電池の消耗をおさえるための機能

電池の消耗をおさえるために、以下の2通りの設定ができます。

オートパワーオフ：一定時間操作しないと電源が切れます。

スリープ　　　　：RECモード時に一定時間操作をしないと、液晶モニターのみ消灯します。ボタン操作をすると液晶モニターが再度点灯します。

1. **電源を入れ【REC／PLAY】を“ REC ”に合わせます。**

2. **【MENU】を押し、設定したい項目を選び【シャッター】を押します。**

メニューのたどりかた（40ページ）：
オートパワーオフの設定：“ 機能 ”→“ オートパワーオフ ”
スリープの設定　　　　：“ 機能 ”→“ スリープ ”

3. **【+】または【−】で設定内容を選び【シャッター】を押します。**

オートパワーオフの設定内容：“ 2分 ”“ 5分 ”
スリープの設定内容　　　　：“ 切 ”“ 30秒 ”“ 1分 ”“ 2分 ”

- PLAYモードではオートパワーオフの設定時間は5分に固定されます。
- PLAYモードではスリープは働きません。
- スリープ中にいずれかのボタンを押すと、スリープを解除してすぐに撮影できる状態になります。
- スリープとオートパワーオフの設定が共に2分の場合はオートパワーオフの方を優先します。すなわち、2分間操作をしないと電源が切れます。
- 以下の状態では、オートパワーオフは働きません。

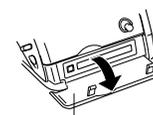
－スライドショー中
－本機のデジタル端子やUSB接続端子を通じて本機を外部のパソコンやプリンターなどと接続しており、外部機器で本機を操作しているとき
－ACアダプターを接続しているとき

メモリーカードについて

本機は、撮影画像の記録用としてメモリーカード（コンパクトフラッシュカード<CF TYPE Ⅰ/Ⅱ>、またはマイクロドライブ）を使用します。

重要!
- メモリーカードの抜き差しの際は、電源を切った状態で行なってください。
- カードには、表裏、前後の方向があります。無理に入れようとすると破損の恐れがあります。

メモリーカードを入れる

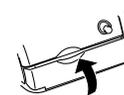
1. **【メモリーカードカバー】を開きます。**

【メモリーカードカバー】

2. **メモリーカード表面の矢印を本機の前面部側に向け、しっかり押し込みます。**

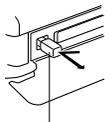
- 【イジェクトボタン】が出ているときは【イジェクトボタン】を押し込んでからメモリーカードを入れてください。

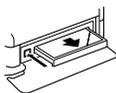
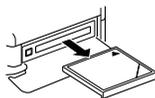
表面（矢印のある面）を前面部側に向ける

【イジェクトボタン】

3. **【メモリーカードカバー】を閉めます。**

メモリーカードを取り出す

1. **【メモリーカードカバー】を開きます。**

2. **【イジェクトボタン】を押します。**
- 1回押すと、【イジェクトボタン】が飛び出します。

【イジェクトボタン】

3. **【イジェクトボタン】を深く押し込みます。**

4. **メモリーカードを取り出します。**

5. **【メモリーカードカバー】を閉めます。**

重要!
- 故障の原因となりますので、メモリーカード挿入部にはメモリーカード以外のものを入れないでください。
- 万一異物や水がメモリーカード挿入部に入り込んだ場合は、本機の電源を切り、電池・ACアダプターを抜いて、販売店またはカシオテクノ・サービスステーションにご連絡ください。
- メモリーカードの挿入部を下にしたまま、カードを取り出さないでください。メモリーカードが落下して、故障やデータが破壊する場合があります。
- 【動作確認用ランプ】が点滅している間にメモリーカードを取り出さないでください。撮影された画像がメモリーカードに記録されなかったり、メモリーカードを破壊する場合があります。

メモリーカードをフォーマットする

メモリーカードをフォーマットすると、メモリーカードの内容がすべて消去されます。

重要!
- 画像データにメモリープロテクト（87ページ）をかけていても、メモリーカードのフォーマットを行なうと、すべてのデータが消去されます。
- 一度メモリーカードをフォーマットすると、二度とデータを元に戻すことはできません。フォーマットしてもよいかをよく確かめてから行なってください。

1. **電源を入れ【REC／PLAY】を"REC"または"PLAY"に合わせます。**

2. **【MENU】を押し"フォーマット"を選び【シャッター】を押します。**

メニューのたどりかた（40ページ）：
RECモード時　："機能"→"設定"→"フォーマット"
PLAYモード時："設定"→"フォーマット"

3. **【+】または【−】で"はい"を選び【シャッター】を押します。**
はい：フォーマットを実行します。
いいえ：フォーマットを実行しません。

メモリーカードのご注意

■メモリーカードについて
- 本機はメモリーカードが装着されていないと画像が記録できません。必ずメモリーカードを装着してください。
- メモリーカードは必ずカシオ製コンパクトフラッシュカードを使用してください。他社のメモリーカードをお使いの場合は動作保障できません。
- 静電気、電気的ノイズ等により記録したデータが消滅または破壊する事がありますので、大切なデータは別のメディア（MOディスク、フロッピーディスク、ハードディスクなど）にバックアップして控をとることをおすすめします。
- 万が一メモリーカードの異常が発生した場合は、メモリーカードのフォーマットの操作で復帰できますが、外出先などでこの操作を行なえない場合に備えて複数枚のメモリーカードをお持ちすることをおすすめします。
- 異常と思われる画像を撮影したり、新たに別売のメモリーカードをご購入された場合は、一度フォーマット（初期化）してお使いいただくことをおすすめいたします。
- フォーマットの操作を行なうときは、ACアダプターを使用するか、新品のアルカリ電池またはリチウム電池を使用してください。フォーマット中に電源が切れると正しくフォーマットが行なわれず、メモリーカードが正常に使用できない場合があります。

■IBM社製マイクロドライブのご注意

本製品でのIBM社製マイクロドライブの動作は確認されていますが、ご使用にあたっては以下の注意事項をお読みになり、取り扱いには十分注意してください。

- ご使用の前に必ずマイクロドライブに付属の取扱説明書をよくお読みください。
- ご使用の際、マイクロドライブ自体が熱を持つことがあります。カメラから取り出すときは十分ご注意ください。
- マイクロドライブの抜き差しの際は、ラベル面を強く押さないようにしてください。内部が圧迫され、故障の原因となることがあります。
- 【動作確認用ランプ】が点滅中は、電源を切ったり、衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。
- マイクロドライブの内部は非常に精密です。装着したカメラが落下した場合、カメラは故障しなくてもマイクロドライブは故障する場合があります。カメラに付けた状態でも、取り扱いには十分注意してください。
- マイクロドライブは容量が非常に大きいため、ご使用の状況によっては処理に時間がかかる場合があります。
- マイクロドライブは、その特性上、気圧の低いところでは正常に動作しない場合があります。標高の高い場所でのご使用は避けてください。
- マイクロドライブはコンパクトフラッシュカードに比べて大きな電力を必要とします。使いかたによって、電池寿命が極端に短くなる場合があります。また、アルカリ電池では使用環境、電池メーカーの違いなどによって、ほとんど動作しない場合があります。マイクロドライブを使用される場合、ニッケル水素蓄電池、またはリチウム電池のご使用をおすすめいたします。
- 電池残量が充分でないときは、マイクロドライブの保護のため撮影間隔が長くなるときがあります。
- 本機は、コンパクトフラッシュカードとマイクロドライブの両方が使用できるよう設計していますが、マイクロドライブはコンパクトフラッシュカードにくらべ、若干取り出しにくいことがあります。

■マイクロドライブの故障について

万一故障した場合は、マイクロドライブの販売元、あるいは指定の連絡先にお問い合わせください。当社ではマイクロドライブの故障に関してのサポートはしておりません。また、その際のデータの消失に対しても責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

メニュー画面の操作

本機ではメニュー画面を使用して様々な操作を行ないます。この操作を先ず覚えてください。【MENU】を押すと、メニュー画面が表示されます。メニューの内容はREC（撮影）モードとPLAY（再生）モードでは異なります。ここでは例としてRECモードでの操作を説明します。

1. **【POWER ON/OFF】をスライドさせて電源を入れます。**

2. **【REC／PLAY】を"REC"に合わせます。**
- PLAYモードの機能を設定する場合は"PLAY"に合わせます。

3. **【MENU】を押します。**

4. **【+】や【−】で設定したい項目を選び【シャッター】を押します。**
- 各項目の設定は操作ガイドにしたがって操作してください。

【+】【−】：項目を選択したり、次のページへ移動します。
【シャッター】：選択した項目に決定します。
【MENU】：前の画面に戻ります。

●表示例

RECモード1ページ目

RECモードの機能メニュー2ページ目

- 一部の項目では【⏲ 🏠】を押して操作を終了する項目があります。
- メニューの内容については「メニュー一覧表」（109ページ）を参照してください。

日時の設定

お買い上げ後初めて撮影をする前に、日時を設定してください。この日時は、ファイル名やファイル情報、画像上に貼り付けられる「タイムスタンプ」（42ページ）などに利用されます。

重要!
- 電池や、ACアダプターで電源が供給されないと、約24時間で日時がリセットされます。
- 時刻が点滅している場合は、日時設定がセットされていない、またはリセットされていることが考えられますので、日時設定をしてください。
- 日時設定を行なわないと、間違った時間データによる「ファイル名」「タイムスタンプ」の機能が働いてしまいます。必ず設定してください。

日付と時刻を設定する

1. **電源を入れ、【REC／PLAY】を“REC”または“PLAY”に合わせます。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“日時設定”を選び【シャッター】を押します。**

メニューのたどりかた：
RECモード時：“機能”→“設定”→“日時設定”
PLAYモード時：“設定”→“日時設定”

4. **設定項目を選び、日時を合わせます。**

緑色の印

【シャッター】........... 緑色に点灯している印を移動させます。
【+】または【−】....... 緑色に点灯している印の部分の数字などを変えます。

5. **【⏲ 🏠】で決定します。**

6. **【⏲ 🏠】を押して終了します。**

日付の表示方法を変える

画面上での日付の表示方法を3通りの中から選ぶことができます。

1. **電源を入れ、【REC／PLAY】を“REC”または“PLAY”に合わせます。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“日付表示スタイル”を選び【シャッター】を押します。**

メニューのたどりかた：
RECモード時：“機能”→“設定”→“日付表示スタイル”
PLAYモード時：“設定”→“日付表示スタイル”

4. **【+】または【−】で設定内容を選び【シャッター】で設定します。**

例）2000年10月18日
年／月／日：00/10/18
日／月／年：18/10/00
月／日／年：10/18/00

5. **【⏲ 🏠】を押して終了します。**

タイムスタンプ

撮影時に画像の右下に日付や時刻を写し込むことができます。画像に写し込まれた日付や時刻は消すことはできません。

1. **電源を入れ、【REC／PLAY】を“REC”に合わせます。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“機能”→“タイムスタンプ”と選び【シャッター】を押します。**

4. **【+】または【−】で設定内容を選び、【シャッター】で設定します。**

例）2000年10月18日　午後1時25分

切	：タイムスタンプは写し込まれません。
2000/10/18	：年／月／日
18 1:25pm	：日　時：分　午前／午後
2000/10/18 1:25pm	：年／月／日　時：分　午前／午後

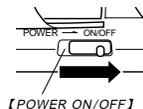
基本撮影

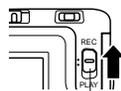
ここでは最も基本的な撮影方法や基本的な設定について説明します。

基本的な撮影

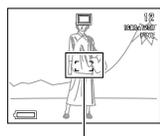
本機ではプログラムAE（Pモード）での撮影が基本となります。被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度と絞り数値を自動的に調整します。

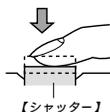
1. **電源を入れる前にレンズキャップをはずします。**

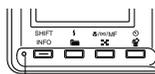
2. **【POWER ON/OFF】をスライドさせて電源を入れます。**
液晶モニターに画像またはメッセージが表示されます。

【POWER ON/OFF】

3. **【REC／PLAY】を“REC”に合わせます。**

【REC／PLAY】

REC　：RECモードになり、撮影できる状態になります。
PLAY：PLAYモードになり、再生できる状態になります。

4. **【液晶モニター】に表示されている【オートフォーカスフレーム】を被写体に合わせます。**

【オートフォーカスフレーム】

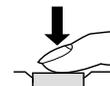
5. **【シャッター】を半押しし、ピントを合わせます。**

【シャッター】

- オートフォーカス機能により、自動的にピントが合います。ピントは【オートフォーカスフレーム】や【動作確認用ランプ】の点灯のしかたで知ることができます。

【動作確認用ランプ】

ピントが合う
【オートフォーカスフレーム】：緑色点灯
【動作確認用ランプ】　　　　：緑色点灯

ピントが合わない
【オートフォーカスフレーム】：赤色点灯
【動作確認用ランプ】　　　　：赤色点灯

- レンズや各センサーを指でふさがないでください。

6. **ピントが合っていることを確認して【シャッター】を全押しします。**

- 撮影された画像は、いったん本機に内蔵のバッファメモリーに記憶され、順次メモリーカードに保存されます。バッファメモリーがいっぱいになるまで、連続して撮影を続けることができます。
- 画質によって保存できる枚数が異なります。（53ページ）
- 手ぶれを起さないために、【シャッター】は静かに押してください。
- シャッター速度が遅いときや、望遠で撮影するときは、手ぶれ防止のため、三脚の使用をおすすめします。

■手ぶれ警告表示について

ズームを望遠側にしているときや、シャッター速度が遅くなると、(手ぶれ警告表示）が【液晶モニター】に表示されます。

重要! • (手ぶれ警告表示）が出たら、三脚やリモコンを併用してください。

撮影時の画面のご注意

- 撮影時、【液晶モニター】に表示される被写体の映像は、フレーム確認のための簡易画像です。
撮影した内容は、選択した画質で記録されており、出力画素数は確保されています。メモリーカードには精細な画像で記録されています。
- 被写体の明るさにより、撮影時の【液晶モニター】の表示速度が遅くなったり、ノイズが出る場合があります。

オートフォーカスのご注意

- 次ような被写体に対しては、ピントが合わないことがあります。ピントが合わない場合はピント合わせの方法をマニュアルに切り替えて（51ページ）撮影してください。

－階調の無い壁などコントラストが少ない被写体
－強い逆光のもとにある被写体
－光沢のある金属など明るく反射している被写体
－ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
－カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
－暗い場所にある被写体
－手ぶれをしているとき

- ピントが合わない場合は自動的に下記の固定位置に焦点が調節されます。

明るい場所での撮影：1.5m以上
フラッシュを使用しての撮影：約2m

- 【動作確認用ランプ】が緑色に点灯していたり、【オートフォーカスフレーム】が緑色で表示されていてもピントが正しく合わない場合があります。

撮影時のご注意

- 【動作確認用ランプ】が緑色に点滅している間に【電池ブタ】を開けることは、絶対におやめください。今撮影した内容が記録されないばかりでなく、撮影済みの内容が破壊されるおそれがあります。
- メモリーカードに記録中は、電池・ACアダプター、およびメモリーカードを抜かないでください。
- 蛍光灯照明の室内で撮影する場合、本機は蛍光灯のフリッカー（人の目では感じられない、ごく微妙なちらつき）を感知してしまい、撮影するタイミングによって、微妙に撮影画像の明るさや色合いが変わる場合があります。

電池消耗時の画像記録について

電池が消耗し、バッテリー残量表示がになったときは画像の記録もれを防ぐために、1枚撮影する毎に“ この画像の記録を中止 ”というメッセージが表示されます。【 】を押すと、画像の記録がキャンセルされます。このメッセージが表示された場合はすみやかに新しい電池と交換してください。【 】を押さなければ、そのまま数秒後に撮影した画像は記録されます。

- マイクロドライブ使用時はバッテリー残量表示がになったときに、メッセージが表示されます。
- パノラマモード、ムービーモードでは電池が消耗していなくてもメッセージが表示されます。

ズームについて

ズームには、光学ズーム／デジタルズームの2種類があります。

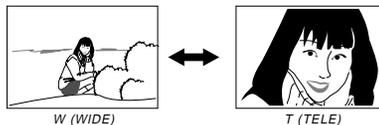
光学ズーム

光学ズームはレンズの焦点距離を変更することによってズームすることができます。ズームの倍率は次の通りです。

倍率：1〜3倍（QV-2300UX）
　　　1〜8倍（QV-2800UX）

1. RECモードにします。
2. 【ズームレバー】をスライドしてズームの倍率を変えます。

W（WIDE）：広角になります。
T（TELE）：望遠になります。

W (WIDE)　　T (TELE)

参考
- 光学ズームの倍率により、レンズの絞りの開放値も変わります。望遠側では開放値が暗くなります。本機で表示している絞りの値は光学ズーム1倍時の値です。
- 望遠で撮影するときは、手ぶれ防止のため三脚の使用をおすすめします。

デジタルズーム

デジタルズームは画面の中央を拡大して記録します。ズームの倍率は次の通りです。

倍率：2倍、4倍

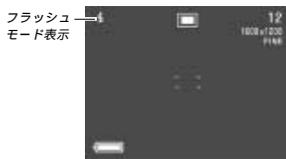
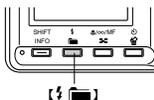
1. RECモードにします。
2. 【MENU】を押します。
3. “機能”→“デジタルズーム”と選び【シャッター】を押します。
4. 設定内容を選び【シャッター】で設定します。

切	：デジタルズームは働きません。
オート	：【ズームレバー】を操作して光学ズームが最も望遠になった後に、自動的に2倍、4倍の順でデジタルズームに切り替わります。
2倍	：常に2倍のデジタルズームになります。
4倍	：常に4倍のデジタルズームになります。

- 4倍時は画面上に枠が表示され、その部分のみが記録されます。また、記録される画像サイズは800×600pixelsのみになります。
- ムービーモード,パノラマモードでは4倍は使用できません。
- シーン撮影モードでフレーム表示されている場合は、2倍、4倍ともに使用できません。

フラッシュについて

撮影条件に合わせてフラッシュをさまざまに調整することができます。

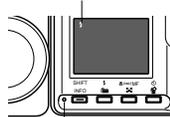
1. RECモードにします。
2. 【 】を押してフラッシュモードを選びます。

- 【 】を押すたびに【液晶モニター】に次の順でフラッシュの発光方法が表示され切り替わります。

表示なし（自動発光）→（発光禁止）→（強制発光）→（赤目軽減）

表示なし（自動発光）	：露出に合わせて自動的に発光します。
（発光禁止）	：露出に関係なく発光しません。
（強制発光）	：露出に関係なく強制的に発光します。
（赤目軽減）	：プリ発光してから再度発光することで、フラッシュ撮影時に人の目が赤く写ることを軽減します。

フラッシュの状態について

フラッシュの状態については【シャッター】を半押ししたときに、【液晶モニター】や【動作確認用ランプ】で確認できます。

【液晶モニター】
フラッシュの発光方法を自動発光または赤目軽減に設定した場合、フラッシュ発光時は が表示されます。

【動作確認用ランプ】
オレンジ／点滅：フラッシュ充電中
赤／点滅：フラッシュ充電不可

フラッシュの光量を変える

フラッシュの光量を変えることができます。

1. RECモードにします。
2. 【MENU】を押します。
3. “機能”→“フラッシュ光量”と選び【シャッター】を押します。
4. 設定内容を選び【シャッター】で設定します。

強　：強く光ります。
標準：標準です。
弱　：弱く光ります。

フラッシュ使用時のご注意

- 【フラッシュ発光部】や【調光センサー】が指で隠れないようにしてください。隠れてしまうとフラッシュ本来の効果が得られなくなります。

QV-2300UX

QV-2800UX

- フラッシュによる撮影距離は下記の通りです。この範囲外の被写体に対しては適切な効果が得られません。

約0.5m〜約2m（QV-2300UX）
約0.5m〜約2.5m（QV-2800UX）　※絞り開放時

- フラッシュの充電時間は、そのときの使用条件（電池の種類、状態や温度等）により異なります。

数秒〜10秒程度

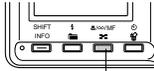
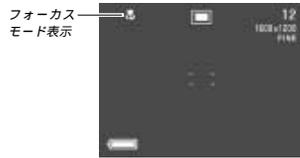
- ムービーモードの場合はフラッシュは発光しません。このとき（発光禁止）が表示されます。
- 電池が消耗するとフラッシュの充電ができなくなることがあります。このとき（発光禁止）が点灯し、フラッシュが正常に発光せずに適正な露出が得られないことを示します。速やかに新しい電池と交換してください。
- （赤目軽減モード）で被写体がカメラの方に視線を向けていない場合や被写体までの距離が遠い場合には赤目軽減効果が得られないことがあります。
- （赤目軽減モード）では露出に合わせて自動的に発光するため、明るい場所でのフラッシュ発光はしません。
- フラッシュを使用した場合は、ホワイトバランスが固定されるため、外光や蛍光灯など他の光源があると色味が変わることがあります。

ピント合わせの方法を変える

ピント合わせの方法には、オートフォーカス、マクロ、無限遠、マニュアルフォーカスの4種類があります。これらをフォーカスモードといいます。

1. **RECモードにします。**

2. **【/∞/MF】を押します。**

【/∞/MF】

フォーカスモード表示

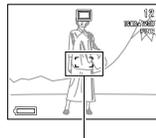
押すごとにフォーカスモードが切り替わります。
表示なし（オートフォーカス）→（マクロ）→ ∞（無限遠）→ MF（マニュアルフォーカス）

自動でピントを合わせる（オートフォーカス）

オートフォーカスモードでは自動的にピントを合わせることができます。シャッターを半押しすると、オートフォーカス機能が働き自動的にピント調整を始めます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

	光学ズーム倍率	範囲
QV-2300UX	1倍	10cm〜∞
	3倍	50cm〜∞
QV-2800UX	1倍	40cm〜∞
	8倍	1m〜∞

1. **【/∞/MF】を何回か押してフォーカスモードの表示を消します。**

2. **ピントを合わせたい被写体を【オートフォーカスフレーム】の中にとらえて、【シャッター】を半押しします。**

【オートフォーカスフレーム】

- 【動作確認用ランプ】と【オートフォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。

状況	動作確認用ランプ	オートフォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせ不可	赤点灯	赤点灯

3. **【シャッター】を全押しして撮影します。**

近くを撮影する（マクロ）

マクロモードでは近距離で自動的にピントを合わせることができます。近くのものを撮影（接写）するときに使用します。シャッターを半押しすると、オートフォーカス機能が働き自動的にピント調整を始めます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

	光学ズーム倍率	範囲
QV-2300UX	1倍	約1cm〜50cm
QV-2800UX	1倍〜1.6倍	約1cm〜50cm

1. **【/∞/MF】を何回か押してを表示させます。**

2. **撮影します。**

- ピントの合わせかた、撮影のしかたはオートフォーカスモードと同じです。
- 【動作確認用ランプ】／【オートフォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。点灯のしかたはオートフォーカスモードと同じです。

重要!
- 撮影可能な範囲はレンズ前面のプロテクタから被写体までの距離です。
- QV-2300UXではマクロモードで光学ズームは使用できません。
- QV-2800UXではマクロモードでの光学ズームは1倍〜1.6倍の範囲に制限されます。

遠くを撮影する（無限遠）

無限遠モードでは∞（無限遠）付近で自動的にピントを合わせることができます。景色など遠景を撮影するときに使用します。シャッターを半押しすると、オートフォーカス機能が働き自動的にピント調整を始めます。

1. **【/∞/MF】を何回か押して∞を表示させます。**

2. **撮影します。**

- ピントの合わせかた、撮影のしかたはオートフォーカスモード（49ページ）と同じです。
- 【動作確認用ランプ】／【オートフォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。点灯のしかたはオートフォーカスモードと同じです。

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

マニュアルフォーカスモードでは手動でピントを合わせることができます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

	光学ズーム倍率	範囲
QV-2300UX	1倍	1cm〜∞
	3倍	50cm〜∞
QV-2800UX	1倍	1cm〜∞
	8倍	1m〜∞

1. **【/∞/MF】を何回か押してMFを表示させます。**

2. **MFが点滅中に、【液晶モニター】で確認しながらピントを合わせます。**

【+】：遠い側
【−】：近い側

- MFが点滅している2秒間にキー操作がないと、ピントは決定し、MFは点灯に変わります。
- MFが点滅している間に【/∞/MF】を押すと他のフォーカスモードに切り替えることができます。

3. **【シャッター】を押すとMFが点灯に変わり、ピントが固定されます。**

- MFが点灯している間は、【+】または【−】でEVシフトが可能です。
- MFが点灯している間に【/∞/MF】を押すとMFが点滅に変わり、ピント合わせができるようになります。

4. **【シャッター】を押して撮影します。**

- マニュアルフォーカスモードではオートフォーカスフレームは表示されません。

フォーカスロック

撮影したい構図で【オートフォーカスフレーム】に入らない被写体にピントを合わせる場合は、フォーカスロックを使います。フォーカスロックはオートフォーカスモード、マクロモード（）、無限遠モード（∞）で使用できます。

1. **ピントを合わせたい被写体を【オートフォーカスフレーム】の中にとらえて、【シャッター】を半押しします。**

- ピントが合うと【オートフォーカスフレーム】が緑色になります。

【オートフォーカスフレーム】

2. **【シャッター】を半押ししたまま、撮影する構図にレンズを向けます。**

3. **【シャッター】を全押しして撮影します。**

参考
- フォーカスロックと同時に露出もロックされます。

画像のサイズと画質を変える

本機は、撮影する内容に応じて、画像のサイズと画質の切り替えができます。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "機能"→"サイズ／画質"と選び【シャッター】を押します。

4. 設定内容を選び【シャッター】を押します。

●サイズ／画質と撮影可能枚数

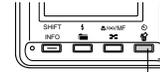
出力画素数(pixels)	撮影画質	ファイルサイズ	コンパクトフラッシュカード8MB	コンパクトフラッシュカード64MB	マイクロドライブ340MB
1600×1200	高精細 FINE	約850KB	約8枚	約71枚	約401枚
	標準 NORMAL	約600KB	約11枚	約99枚	約562枚
	エコノミー ECONOMY	約350KB	約19枚	約167枚	約943枚
800×600	高精細 FINE	約200KB	約33枚	約282枚	約1587枚
	標準 NORMAL	約150KB	約43枚	約365枚	約2054枚
	エコノミー ECONOMY	約120KB	約53枚	約443枚	約2494枚

重要!
- 撮影した画像によってファイルサイズが異なるため、記録枚数は変化します。
- 容量の異なるメモリーカードをご使用になる場合は、おおむねその容量に比例した枚数が撮影できます。
- 1つのフォルダーに保存される画像数に制限（最大250枚）があるため、上記の撮影可能枚数と画面上の表示枚数が一致しない場合があります。
- カードブラウザ（HTMLファイル）機能を"タイプ1～4"にしている場合（104ページ）、上記撮影可能枚数と異なることがあります。

セルフタイマーを使う

セルフタイマーは2通りの時間が設定できます。

1. RECモードにします。

2. 【⏲ 🏠】を押して時間を選びます。

- 【⏲ 🏠】を押すたびに【液晶モニター】に次の順で時間が表示され、切り替わります。

表示なし（切）：セルフタイマーは使用できません。
10SEC　：10秒後に撮影されます。
2SEC　：2秒後に撮影されます。

3. 【シャッター】を押して撮影します。
- 【液晶モニター】に10秒または2秒からのカウントダウンが表示されます。
- カウントダウン表示中に【シャッター】を押すと、セルフタイマーを解除することができます。

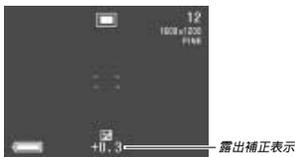
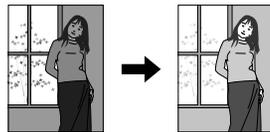
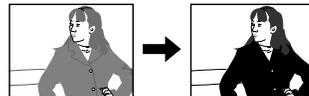
参考
- セルフタイマーで撮影するときは、【レンズ部】を回転させて、レンズと【液晶モニター】を同じ側にしておくと、セルフタイマーのカウントダウン表示を見ながら撮影されるのを待つことができます。途中で撮影をキャンセルしたい場合などにも、セルフタイマーの残り時間がわかり便利です。
- シャッター速度が遅いときにセルフタイマーの2秒を利用すると手ぶれ防止になります。

露出を補正する

本機は、露出モードがプログラムAE、絞り優先AE、シャッター速度優先AEの場合、撮影時の明るさに応じて、露出値（EV値）を下記の範囲で手動で補正することができます。逆光での撮影、間接照明の室内、背景が暗い場合の撮影などに利用すると、より良好な画像が得られます。

露出補正値：－2EV ～ ＋2EV
補正単位　：1/3EV

1. 露出モードをプログラムAE、絞り優先AE、シャッター速度優先AEのいずれかにします。（64ページ）

2. 【＋】または【－】を押して露出補正（EVシフト）します。
- 【液晶モニター】に露出補正値が表示されます。

【＋】：＋方向に補正されます。白い物の撮影や逆光での撮影のときに押します。

【－】：－方向に補正されます。黒い物の撮影や晴天の野外などのときに押します。

- 露出補正値をリセットする場合は、反対方向に露出補正し、EVを消してください。
- パノラマモードでは1枚目を撮影したときに露出補正値が固定されます。

3. 適切な明るさになったら【シャッター】を押して撮影します。

重要!
- 明るすぎたり、暗すぎたりする場合は、露出補正ができない場合があります。

応用撮影

本機は、さまざまな機能の切り替えにより、多彩な応用撮影ができます。

ポートレートを撮る（ポートレートモード）

背景が適度にぼやけ、人物を浮き立たせるように撮影できます。

1. RECモードにします。

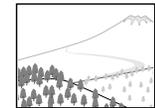
2. 【MENU】を押します。

3. "ポートレート"（ポートレートモード）を選び【シャッター】を押します。

4. 【シャッター】を押して撮影します。

参考
- 光学ズームを望遠側にして撮影すると背景がさらにぼやけ、効果的なポートレートが撮影できます。

風景を撮る（風景モード）

近景から遠景までを鮮明に撮影することができます。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "風景"（風景モード）を選び【シャッター】を押します。

4. 【シャッター】を押して撮影します。

参考
- 光学ズームを広角側にして撮影すると、近景から遠景までの奥行感や、横の広がりも表現することができます。
- 室内や日陰などの暗いところでは、近景にピントを合わせた場合、遠景が鮮明に写らない場合があります。

夜景を撮る（夜景モード）

長時間露光をすることにより、夜景を美しく撮影することができます。

1. **RECモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **"夜景"(夜景モード)を選び【シャッター】を押します。**

4. **【シャッター】を押して撮影します。**

参考
- 夕暮れや夜景などを背景に人物を撮影する場合などに夜景モードとフラッシュを組み合わせることで、背景と人物をきれいに撮影することができます（スローシンクロ撮影）。

重要!
- 夜景モードではシャッター速度が遅くなるので、必ず三脚を使用し、本機を固定してください。
- 暗い所ではピントが合いづらいことがあります。その時はマニュアルフォーカス（51ページ）をお使いください。また、動きの速い被写体ではぶれる場合があります。
- シャッター速度が遅くなるため、画面に表示される画像と実際に記録される画像が一致しないことがあります。
- コントラスト（73ページ）の設定を変更しても変化はありません。

さまざまなシーンを選んで撮る（シーン撮影モード）

28種類のシーンの中から撮影したいシーンを選ぶと、自動的にそのシーンに最適な設定になります。

■撮影例

夕日を撮りたい場合は"夕日を写します"を選びます。

車のライトの光跡などを撮りたい場合は"ライトの光跡を写します"を選びます。

- シーンの種類については「シーン撮影一覧表」（111ページ）をご覧ください。

■フレームについて

選んだシーンによっては【液晶モニター】に【フレーム】が表示されます。フレームに被写体をあわせることでバランスのよい構図で撮影することができます。【オートフォーカスフレーム】もシーンに合った位置に表示されます。

- 本機は縦横認識機能を備えていないため、Photo Loaderを使用しても画像の縦横変換はできません。パソコンで縦画像を表示させるには市販の画像編集ソフト等で画像の回転を行なってください。

【オートフォーカスフレーム】
【フレーム】

例:バストアップを写します

1. **RECモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

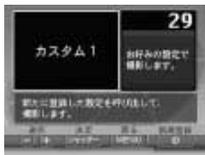
3. **"シーン"(シーン撮影モード)を選び【シャッター】を押します。**

4. **シーンを選び【シャッター】を押します。**
- No.29～No.31は自分で各種設定を記録させること(カスタム登録)ができます。(59ページ)

5. **【シャッター】を押して撮影します。**

参考
- シーンに使用されている画像は本機で撮影されたものではありません。イメージ画像です。
- 被写体の条件によっては、充分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
- シーン撮影モードでも各種の設定を変更することができます。
- シーンの順番は最後に選択されたものが先頭になります。ただし、設定のリセット（75ページ）を行なうとシーンの順番はリセットされます。

撮影したいシーンを登録する（カスタム登録）

今まで撮影した画像の中に含まれている設定内容を本機に読み込み、シーン撮影モード（58ページ）に登録することができます。登録した設定をシーン撮影モードで呼び出して同じ設定で撮影することができます。

- 登録される設定内容
  フォーカスモード、絞り（A,Mモード時）、シャッター速度（S,Mモード時）、EVシフト、感度、フィルター、露出モード、測光方式、ホワイトバランス、色強調、フラッシュ光量、シャープネス、彩度、コントラスト、フラッシュモード
- QV-2300UXはQV-2300UXで撮影された画像からのみ、QV-2800UXはQV-2800UXで撮影された画像からのみ設定内容を読み取ることができます。
- 登録件数
  3件

1. **RECモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **"シーン"(シーン撮影モード)を選び【シャッター】を押します。**

4. **登録したいカスタム番号を選び【⏲ 🗑】を押します。**
- No.29～No.31にカスタム登録できます。

5. **読み込む画像を選び、【シャッター】を押します。**
- 登録が完了し、撮影できる状態になります。以降、シーン撮影モード(58ページ)と同様の操作で、この設定を選んで撮影することができます。

6. **【シャッター】を押して撮影します。**

参考
- シーンの順番は最後に選択されたものが先頭になります。ただし、設定のリセット（75ページ）を行なうとシーンの順番はリセットされます。
- 登録したカスタム設定の内容は消去できません。すべてのカスタム設定を登録したあとに新しくカスタム設定をしたい場合は、不要なカスタム設定に上書きして登録してください。
- 各シーンの設定状態は、メニューをたどり、各機能の設定内容を表示させることにより、確認できます。

動画を撮る（ムービーモード）

最大16秒まで動画を撮影することができます。ムービー撮影には【シャッター】を押した直前（過去撮りモード）と押した直後（通常モード）の2通りの撮影方法があります。過去撮りモードで撮影すると、シャッターチャンスを逃すことなく撮影することができます。

- ファイル形式：AVI
  AVI形式は、Open DMLグループが提唱したMotion JPEGフォーマットに準拠しています。
- 画像のサイズ：320×240 pixels
- 動画の記憶容量
  記憶容量：約300KB／秒
  一度に撮影可能なムービーの最長時間：16秒

通常モードで撮影する

1. **RECモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **"ムービー"(ムービー通常モード)を選び【シャッター】を押します。**

4. **撮影する被写体にカメラを向け【シャッター】を半押しします。**
- 半押しし続けている間、被写体の動きに応じてオートフォーカスでピント合わせが続きます。

5. **【シャッター】を全押しします。**
- 16秒間撮影が続きます。
- 16秒以内のムービーを撮影する場合は、【シャッター】を押すことで撮影を終えることができます。

過去撮りモードで撮影する

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. " ムービー(過去) "(ムービー過去モード)を選び【シャッター】を押します。

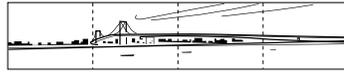
4. 撮影する被写体にカメラを向け【シャッター】を半押しします。
- 半押しし続けている間、被写体の動きに応じてオートフォーカスでピント合わせが続きます。

5. 撮影する被写体カメラを向け【シャッター】を全押しします。
- 被写体の動きに応じてオートフォーカスでピント合わせが続きます。

6. 被写体を追い続け、決定的瞬間が終わったら【シャッター】を全押しします。
- 【シャッター】を押した時点からさかのぼって16秒間が記録されます。
- 手順5で【シャッター】を押してから、16秒以内に【シャッター】を押したときは、手順5で【シャッター】を押した時点までの時間で撮影されます。

重要!
- ムービーモードでは、フラッシュは発光しません。
- パソコンでAVIファイルを見る場合は、付属のCD-ROMに収録されているQuickTimeをインストールしてください。

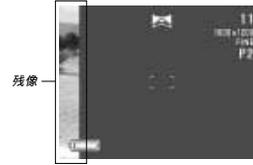
パノラマ画像を撮る（パノラマモード）

複数の画像を画面上でつなぎ合わせながら、パノラマ画像を撮影することができます。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. " パノラマ "(パノラマモード)を選び【シャッター】を押します。

4. 【シャッター】を押して撮影します。
- 1枚目に撮影した画像が残像になって、画面左端に表示されます。

残像

5. 2枚目以降は、前回の残像と今回の被写体が重なるよう合わせて、【シャッター】を押して撮影を続けます。

6. 必要な枚数を撮影したら【MENU】を押します。
- 最大10枚までの画像をつなぎ合わせることができます。

参考
- パノラマモード時の露出とホワイトバランスは、1枚目を撮影したときの状態で固定されたまま、2枚目以降の撮影をします。

決まった時に撮る（インターバルモード）

撮影枚数、繰返間隔、開始時刻の設定を組み合わせることで、下記のような撮影ができます。

- 現時点から一定の間隔を繰り返し撮影する（インターバル撮影）
- 設定した時刻に1枚撮影する（タイマー撮影）
- 設定した時刻から一定間隔で撮影する（インターバルタイマー撮影）

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. " インターバル "(インターバルモード)を選び【シャッター】を押します。

4. " 撮影枚数 "を設定して【シャッター】を押します。
- 撮影する枚数を設定します。1枚に設定した場合は手順6に進みます。
- メモリーカードの容量いっぱいに撮影したい場合は、" MAX枚 "を選びます。

5. " 繰返間隔 "を設定して【シャッター】を押します。
- 撮影を繰返す間隔を設定します。1分〜60分まで1分単位で設定できます。

6. " 開始時間 "の" 時 "を設定して【シャッター】を押します。
- 撮影を始める時刻を設定します。開始時刻は現在から24時間以内です。
- 今現在から撮影を開始したい場合は" 今から "を選び、手順8に進みます。

7. " 開始時間 "の" 分 "を設定して【シャッター】を押します。

8. 必要に応じて撮影に関する設定を行ないます。
- 露出モード、測光方式、ホワイトバランス等の設定ができます。

9. 被写体にフレームを合わせて【シャッター】を全押しします。
- 設定時刻になると撮影が開始されます。

重要!
- インターバルモードでは、シャッター速度を " BULB " に設定して撮影することはできません。
" BULB " に設定した場合は、自動的にシャッター速度が1秒で撮影されます。
- シャッター速度を " 20秒 " 以上に設定したときに、" 繰返間隔 " を " 1分毎 " に設定しても、1分間隔の撮影を保つことはできません。

インターバルモードをキャンセルするには

インターバルモードでの撮影待機中に電源を入れると、「インターバル撮影がキャンセルされました」と表示され、インターバルモードの撮影はキャンセルされます。

露出の方法を変える

撮影時の絞りとシャッター速度の決定方法（露出モード）は、次のように変えることができます。
この露出モードは各撮影モードでも切り替えることができます。

Pモード：プログラムAE
Aモード：絞り優先AE
Sモード：シャッター速度優先AE
Mモード：マニュアル露出

プログラムAE

Pモード（プログラムAE）では被写体の明るさに応じてシャッター速度と絞りが自動的に調整されます。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. " 機能 "→" 露出モード "と選び【シャッター】を押します。

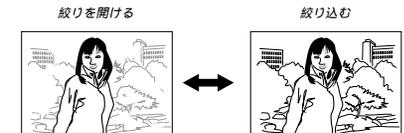
4. " P(プログラム) "を選び、【シャッター】を押します。

5. 【シャッター】を押して撮影します。

絞り優先AE

Aモード（絞り優先AE）では任意の絞りに固定して撮影することができます。絞りを開けるとピントが合う範囲が狭くなり、逆に絞り込むとピントの合う範囲が広くなります。シャッター速度は自動的に調整されます。

絞りを開ける

絞り込む

- 設定できる絞り

絞り値	開ける ←→ 絞る
QV-2300UX	F2.8 • F5.6
QV-2800UX	F3.2 • F4.8 • F8

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. " 機能 "→" 露出モード "と選び【シャッター】を押します。

4. “A（絞り優先）”を選び、【シャッター】を押します。

5. 【SHIFT INFO】を押しながら、【＋】または【－】で絞り値を指定します。

絞り値

【＋】：絞る
【－】：開ける

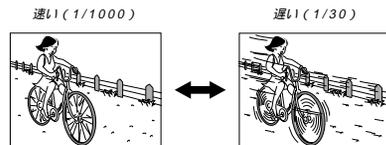
6. 【シャッター】を押して撮影します。

重要! • 被写体が暗すぎたり、明るすぎるときは適正な明るさで撮影できない場合があります。そのときは絞りを適正な値に変更してください。

シャッター速度優先AE

Sモード（シャッター速度優先AE）では任意のシャッター速度に固定して撮影することができます。被写体の動きに応じたシャッター速度が設定できます。絞りは自動的に調整されます。

速い（1/1000）

遅い（1/30）

• 設定できるシャッター速度

シャッター速度	遅い ←→ 速い
	BULB（バルブ）、60秒 ←→ 1/2000秒

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. “機能”→“露出モード”と選び【シャッター】を押します。

4. “S（シャッター速度優先）”を選び【シャッター】を押します。

5. 【SHIFT INFO】を押しながら、【＋】または【－】でシャッター速度を指定します。

シャッター速度

【＋】：速い
【－】：遅い

6. 【シャッター】を押して撮影します。

重要!
- 被写体が暗すぎたり、明るすぎるときは適正な明るさで撮影できない場合があります。そのときはシャッター速度を適正な値に変更してください。
- “BULB”に設定している場合は【シャッター】を押し込んでいる間露光し、【シャッター】を離すと露光を終了します。手ぶれ防止のためにリモコンの使用をおすすめします。
- “BULB”に設定している場合のシャッター速度は最長60秒です。
- “BULB”に設定している場合、セルフタイマー撮影はできません。
- CCDの特性上、シャッター速度が遅くなると撮影した画像にノイズが発生します。そのため、シャッター速度が1秒以上遅くなると、自動的にノイズ軽減処理を行なっています。ただし、シャッター速度が遅くなるほど、ノイズは目立って発生します。また、ノイズ軽減処理のために撮影時間がシャッター速度の2倍になります。
- シャッター速度を1／8秒より遅くした場合は【液晶モニター】で見える明るさと撮影された画像の明るさが異なる場合があります。また、撮影時にAEの範囲外になり最適な絞りにならない場合があります。

マニュアル露出

Mモード（マニュアル露出）ではシャッター速度、絞り値を自由に設定して撮影することができます。

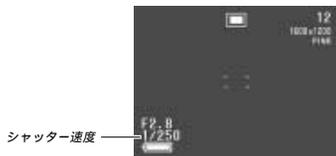
- 設定できるシャッター速度はシャッター速度優先AE時と同じです。
- 設定できる絞りは絞り優先AE時と同じです。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. “機能”→“露出モード”と選び【シャッター】を押します。

4. “M（マニュアル露出）”を選び【シャッター】を押します。

5. 【＋】または【－】でシャッター速度を指定します。

シャッター速度

【＋】：速い
【－】：遅い

6. 【SHIFT INFO】を押しながら、【＋】または【－】で絞り値を指定します。

絞り値

【＋】：絞る
【－】：開ける

7. 【シャッター】を押して撮影します。

重要! • シャッター速度を1／8秒より遅くした場合は【液晶モニター】で見える明るさと撮影された画像の明るさが異なる場合があります。

簡単に露出モードを変える

メニューをたどらずに露出モードを簡単に切り替えることができます。

1. RECモードにします。

2. 【SHIFT INFO】を押したまま【⚡ 】を押して露出モードを切り替えます。
- [P]（プログラムAE）→[A]（絞り優先AE）→[S]（シャッター速度優先AE）→[M]（マニュアル露出）の順で切り替えることができます。

測光方式を変える

測光方式の変更ができます。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. “機能”→“測光方式”と選び【シャッター】を押します。

4. 設定内容を選び【シャッター】を押します。

マルチ（マルチパターン）：
画面の全体を分割して測光します。バランスの取れた露出が得られます。

中央重点：
中央部を重点的に測光します。

スポット：
画面中央のごく狭い部分を測光します。周囲の影響を受けずに、写したい被写体に露出を合わせることができます。

簡単に測光方式を変える

メニューをたどらずに測光方式を簡単に切り替えることができます。

1. RECモードにします。

2. 【SHIFT INFO】を押したまま【/∞/MF】を押して測光方式を切り替えます。

- (マルチ)→(中央重点)→(スポット)の順で切り替えることができます。

感度を変える

感度が変更できます。使用目的に応じて感度を設定してください。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "機能"→"感度"と選び【シャッター】を押します。

4. 設定内容を選び【シャッター】を押します。

ISO 80　：ISO 80相当
ISO 160：ISO 160相当
ISO 320：ISO 320相当

重要!
- 感度を上げると画像のノイズが増加します。使用目的に応じて感度設定をしてください。
- 感度を上げるとオートフォーカスの精度が悪くなる場合があります。また、オートフォーカスの動作が可能な最低限の明るさは変わりません。
- フラッシュを使用しての撮影ではこの設定にかかわらず"ISO 80"で撮影されます。
- Sモード（シャッター速度優先AE）ではこの設定は無効となり"ISO 80"になります。

色を変える（フィルター）

フィルター機能を使用して撮影時の画像の色を変更することができます。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "機能"→"フィルター"と選び【シャッター】を押します。

4. 設定内容を選び【シャッター】を押します。

切／白黒／セピア／赤／緑／青／黄／ピンク／紫

参考
- フィルター機能ではレンズの前に色付きのセロファンを付けたような効果が画面全体に出ます。色強調（72ページ）は画像の特定の色成分のみを強調します。
- 色強調（72ページ）とフィルターが設定されている場合はフィルターが優先され、色強調が無効になります。

ホワイトバランスを変える

ホワイトバランスとは、被写体を自然な色合いで撮影できるように白を基準に調整することです。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "機能"→"ホワイトバランス"と選び【シャッター】を押します。

4. 設定内容を選び【シャッター】を押します。

オート　　：自動的にホワイトバランスを調整します。
太陽光　　：屋外での撮影時
日陰　　　：日陰で青みがかる時
電球　　　：電球下で赤みがかる時
蛍光灯　　：蛍光灯下で緑がかる時
マニュアル：現在の光源に合わせて手動で設定します。「マニュアルホワイトバランスの設定」（71ページ）を参照ください。

参考
- 夜景モードにしたときは、ホワイトバランスは"太陽光"に合わせています。必要に応じてホワイトバランスを調整してください。

マニュアルホワイトバランスの設定

ホワイトバランスの"オート"では光源によって自動調整の処理に時間がかかったり、調整できる範囲（色温度）に限界があります。マニュアルホワイトバランスを使うと、さまざまな光源下で適正な色に調整することができます。マニュアルホワイトバランスの設定は、白い紙などを画面に一杯に写した状態で行なってください。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "機能"→"ホワイトバランス"と選び【シャッター】を押します。

4. "マニュアル"を選び、【シャッター】を押します。

5. 画面全体に白い紙などを写した状態で【シャッター】を押します。

- 【シャッター】を押すとホワイトバランスが調整され、撮影ができる画面に戻ります。
- 【シャッター】のかわりに【】を押すと、前回設定したマニュアルホワイトバランスの設定になります。
- 暗い所や色の濃いものでホワイトバランスを調整すると時間がかかりますので、そのような条件で調整しないでください。

参考
- 電源を切ったり、ホワイトバランスを"オート"などから"マニュアル"に戻した場合でも、前回設定したマニュアルホワイトバランスの設定内容はモードメモリーの入／切にかかわらず記憶されています。

簡単にホワイトバランスを変える

メニューをたどらずにホワイトバランスを簡単に切り替えることができます。

1. RECモードにします。

2. 【SHIFT INFO】を押したまま【】を押してホワイトバランスを切り替えます。

- AWB(オート)→(太陽光)→(日陰)→(電球)→(蛍光灯)→MWB(マニュアル)の順で切り替えることができます。
- マニュアルホワイトバランスの設定はMWB(マニュアル)を選び、画面に白い紙が画面一面に写るようにして【SHIFT INFO】を押しながら【シャッター】を押します。

色を強調する

撮影時に特定の色を強調することができます。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "機能"→"色強調"と選び【シャッター】を押します。

4. 設定内容を選び【シャッター】を押します。

切　　　：色の強調はしません。
赤強調　：赤色の成分が強調されます。
緑強調　：緑色の成分が強調されます。
青強調　：青色の成分が強調されます。
肌色強調：肌色の成分が強調されます。

参考
- フィルター機能（70ページ）ではレンズの前に色付きのセロファンを付けたような効果が画面全体に出ます。色強調は画像の特定の色成分のみを強調します。
- 色強調とフィルター（70ページ）が設定されている場合は、フィルターが優先され、色強調が無効になります。

グリッドを表示する

撮影時、【液晶モニター】に方眼を表示します。被写体の水平や垂直を保つのに便利です。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "機能"→"グリッド表示"と選び【シャッター】を押します。

4. 設定内容を選び、【シャッター】を押します。

入：グリッドを表示します。
切：グリッドは表示しません。

シャープネスを変える

被写体の輪郭を補正します。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "機能"→"シャープネス"と選び【シャッター】を押します。

4. **設定内容を選び【シャッター】を押します。**
ハード：画像がくっきり撮影されます。
標準　：補正はされません。
ソフト：画像がやわらかく撮影されます。

彩度を変える

色の鮮やかさが変更できます。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "機能"→"彩度"と選び【シャッター】を押します。

4. **設定内容を選び、【シャッター】を押します。**
高　：色が濃く撮影されます。
標準：補正はされません。
低　：色が淡く撮影されます。

コントラストを変える

明暗の差を変更することができます。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "機能"→"コントラスト"と選び【シャッター】を押します。

4. **設定内容を選び【シャッター】を押します。**
高　：明暗の差が大きくなります。
標準：補正はされません。
低　：明暗の差が小さくなります。

参考 • 夜景モードでは効果はありません。

各種設定を記憶させる（モードメモリ）

モードメモリとは、電源を切った時でも直前の状態を記憶しておく機能です。電源の入／切で毎回設定をし直す手間がはぶけます。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "機能"→"モードメモリ"と選び【シャッター】を押します。

4. **設定したい機能を選び【シャッター】を押します。**

5. **設定内容を選び【シャッター】を押します。**
入：電源を切ったときにその時点の設定を記憶します。
切：電源を切ったときに初期値に戻ります。

●モードメモリで設定できる機能

機能	入	切（初期値）
撮影モード	最後の設定	通常
感度		ISO 80
露出モード		P（プログラム）
測光方式		マルチ
ホワイトバランス		オート
フラッシュ		自動発光
フォーカス方式		オートフォーカス
デジタルズーム		オート
フラッシュ光量		標準

6. 【⏲ 🗑】を押します。

各種設定のリセット

本機の設定内容を初期値に戻すことができます。初期値については「メニュー一覧表」（109ページ）をご覧ください。

1. RECモードまたはPLAYモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "リセット"を選び【シャッター】を押します。

メニューのたどりかた：
RECモード時："機能"→"設定"→"リセット"
PLAYモード時："設定"→"リセット"

4. **"はい"を選び【シャッター】を押します。**
- リセットしない場合は"いいえ"を選びます。

ショートカット機能

ショートカット機能とは、メニューをたどる操作の一部を省略できる機能です。【SHIFT INFO】を使って操作します。

簡単に露出モード／測光方式／ホワイトバランスを変える

メニューをたどらずに露出モード、測光方式、ホワイトバランスを簡単に切り替えることができます。RECモードのみでできます。

1. RECモードにします。

2. **【SHIFT INFO】を押したまま、下記のいずれかのボタンを押します。押すたびに設定内容が変わります。**
- 詳しくは下記の参照ページをご覧ください。

【⚡ 🗀】　　　：露出モードの切り替えができます。（68ページ）
【🌷/∞/MF ▦】：測光方式の切り替えができます。（69ページ）
【⏲ 🗑】　　　：ホワイトバランスの切り替えができます。（71ページ）

よく設定を変える項目を登録する

【SHIFT INFO】を押したまま、【⚡ 🗀】、【🌷/∞/MF ▦】、【⏲ 🗑】のいずれかのボタンを押すと、メニュー画面をたどらずにあらかじめ登録した項目の設定用の画面が表示されます。頻繁に設定を変える項目を登録しておくと便利です。RECモードのみで使用できます。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. **メニューをたどり、"機能"の中の登録したい設定項目の画面を表示させます。**

例：フィルターの設定画面

- 登録できる項目は「メニュー一覧表」（109ページ）をご覧ください。

4. **【SHIFT INFO】を押したまま、【⚡ 🗀】、【🌷/∞/MF ▦】、【⏲ 🗑】のいずれかのボタンを同時に押しつづけます。**
- ボタン1つにつき1つだけショートカットしたい画面が登録できます。
- 登録が完了すると撮影ができる状態に戻ります。

■登録したショートカットを使う

1. **【SHIFT INFO】を押したまま下記のいずれかのボタンを押します。**
【⚡ 🗀】　　　："SET1"と表示されます。
【🌷/∞/MF ▦】："SET2"と表示されます。
【⏲ 🗑】　　　："SET3"と表示されます。
- 登録されているボタンは上記のように表示されます。

2. **登録したメニュー画面が表示されますので設定を変更します。**

重要! •【⚡ 📁】、【♣/∞/MF ⊞】、【⏲ 🏠】に登録を行なうと、登録したボタンの機能「簡単に露出モード／測光方式／ホワイトバランスを変える」（75ページ）は使用できなくなります。
もとに戻したい場合は、それぞれのボタンに下記の設定用の画面を登録し直してください。

【⚡ 📁】　　　：露出モード
【♣/∞/MF ⊞】：測光方式
【⏲ 🏠】　　　：ホワイトバランス

•設定内容のリセット（75ページ）を行なうと、ショートカットの登録は解除されます。

簡単に設定内容を変える

メニューをたどらずに簡単に"機能"のメニューが表示できます。また、メニューの一覧画面で【SHIFT INFO】を押したまま、【＋】または【－】を押すと簡単に設定ができます。RECモードのみ行なえます。

1. **RECモードにします。**
2. **【SHIFT INFO】を押したまま【MENU】を押します。**
   • "機能"のメニューが表示されます。
3. **設定したい項目を選びます。**

例：シャープネス

4. **【SHIFT INFO】を押したまま、【＋】または【－】で設定します。**
5. **【⏲ 🏠】を押して終了します。**

再生する

本機は【液晶モニター】を備えているので、記録されている内容を本機だけで確認することができます。

基本的な再生のしかた

記録されている画像を順次送ったり戻したりしながら見ることができます。

1. **【REC／PLAY】を"PLAY"に合わせます。**
   • PLAYモードになり、再生できる状態になります。
2. **【＋】または【－】で画像を見て行きます。**

【＋】→ ←【－】
【＋】→ ←【－】
【＋】：進みます。
【－】：戻ります。

参考 •【＋】または【－】を押しつづけると画像が早く送られます。
•初めに表示される画像は簡易画像のため、粗い表示になっていますが、約3秒後に精細な画像が表示されます。ただし、他のデジタルカメラからコピーした画像では、この限りではありません。

動画を再生する

ムービーモードで撮影した動画を再生することができます。

1. **PLAYモードにします。**
2. **【＋】または【－】でムービーモードで撮影した動画を表示させます。**

3. **【シャッター】を押すと動画が再生されます。**
   • 他のキーでさまざまな操作ができます。
   【SHIFT INFO】：全画面と1/4画面を切り替えます。
   【＋】：正しい方向で再生します。
   【－】：逆方向に再生します。
   【シャッター】：再生と一時停止を切り替えます。
   • 一時停止中に【＋】または【－】を押すとコマ送りができます。
   【MENU】：終了します。

パノラマ画像を再生する

パノラマモードで撮影した画像をスクロールして再生することができます。

1. **PLAYモードにします。**
2. **【＋】または【－】でパノラマモードで撮影した画像を表示させます。**

3. **【シャッター】を押すとパノラマ画像が再生されます。**
   • 再生中は他のキーでさまざまな操作ができます。
   【SHIFT INFO】：全画面と縮小画面を切り替えます。
   【＋】：右方向にスクロールします。
   【－】：左方向にスクロールします。
   【シャッター】：再生と一時停止を切り替えます。
   • 一時停止中に【＋】または【－】を押すとコマ送りができます。
   【MENU】：終了します。

画像を拡大して表示する

撮影した画像を拡大して表示させることができます。

1. **PLAYモードにします。**
2. **【＋】または【－】で拡大したい画像を表示させます。**
3. **【MENU】を押します。**
4. **"拡大"を選び【シャッター】を押します。**

• 拡大中は他のキーでさまざまな操作ができます。
【SHIFT INFO】：操作ガイドを表示します。
【＋】：右方向にスクロールします。
【－】：左方向にスクロールします。
【♣/∞/MF ⊞】：上方向にスクロールします。
【⚡ 📁】：下方向にスクロールします。
【ズームレバー】：1倍、2倍、4倍と切り替えます。
【シャッター】：終了します。

重要! •動画とパノラマ画像は拡大表示できません。

参考 •"拡大"を選ばなくても【ズームレバー】で1倍、2倍、4倍の表示切替ができます。

1つの画面に9つの画像を表示する

撮影した内容を9つまで同時に一覧表示させることができます。

1. **PLAYモードにします。**
2. **【♣/∞/MF ⊞】を押します。**
   • 最初に表示していた画像を先頭に9つの画像が表示されます。

1	2	3
4	5	6
7	8	9

【＋】→ ←【－】

10	11	12
13	14	15
16	17	18

【＋】→ ←【－】

19	20	21
22	23	24
25		

【＋】：進みます。
【－】：戻ります。

3. **【＋】、【－】、【SHIFT INFO】以外のボタンを押すと9画面表示は終了します。**

目当ての画像を素早く表示する

1. **9画面表示に切り替えます。**

2. **【SHIFT INFO】を押します。**

- が表示されます。

3. **【+】または【−】でを目当ての画像に移動させて【シャッター】を押します。**

- 目当ての画像が1枚で表示されます。

画像を自動的にページめくりさせる（スライドショー）

撮影した内容を自動的に次々とページめくりさせる機能（スライドショー）です。ページめくりの間隔を設定することもできます。

 → →

1. **PLAYモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“ スライドショー ”を選び【シャッター】を押します。**

- スライドショーが始まります。
- ここで【MENU】を押すと3〜30秒の範囲でページめくりの間隔を指定できます。

4. **【シャッター】を押すとスライドショーが終了します。**

重要!
- スライドショー中は、本機のオートパワーオフ機能（操作を行なわないと自動的に電源が切れる機能）が働きません。このため電池で本機を使用しているときにスライドショーをしたまま放置してしまうと、確実に電池が消耗します。スライドショーを行なった後は、必ずスライドショーを終了して電源を切るようにしてください。
- 画面の切り替り中はボタン操作が効かなくなります。画面が静止している時にボタン操作をしてください。ボタンが効かない場合はしばらくボタンを押し続けてください。
- パソコンからコピーした画像や、他のデジタルカメラの画像では、設定した間隔より長くなる場合があります。

消去する

画像を消去する方法には次の4つの方法があります。

表示画像	：表示されている画像を1画像ずつ消去する。
1画像単位	：消したい画像を1画像ずつ選び、まとめて消去する。
フォルダ単位	：フォルダごとに消去する。
全画像	：すべての画像を消去する。

重要!
- 一度消去してしまった撮影内容は、二度と元に戻すことはできません。消去の操作を行なう際は、本当に不要な画面かどうかをよく確かめてから行なってください。特に、全画像消去の操作では、撮影したすべての内容を一度に消去してしまいますので、内容をよく確かめてから操作してください。
- すべての画像がメモリープロテクトされている状態では、実行できません。
- メモリープロテクトのかかった画像は消去できません。メモリープロテクトの解除（87ページ）を行なってから操作してください。

表示されている画像を消去する

表示されている画像を1画像ずつ消去することができます。

1. **PLAYモードにします。**

2. **【+】または【−】で消去したい画像を表示させます。**

3. **【 】を押します。**

4. **“ はい ”を選びます。**

- 消去を中止する場合は“ いいえ ”を選びます。

5. **【シャッター】を押します。**

- パノラマモードで撮影された画像は、グループ単位で消去されます。

フォルダ単位で画像を消去する

フォルダ内の画像をまとめて消去することができます。

1. **PLAYモードにします。**
2. **【MENU】を押します。**
3. **"消去"→"フォルダ画像"と選び【シャッター】を押します。**
4. **【+】または【−】で消去したいフォルダを表示させます。**
5. **【シャッター】を押して消したいフォルダに　を表示させます。**

- 各フォルダ内の最初の画像が表示されます。
- 最初に表示されるフォルダには初めから　が表示されています。
- 複数のフォルダをまとめて消去する場合は手順4〜5を繰り返します。

6. **【　】を押します。**
7. **「表示されている画像を消去する」(83ページ)の手順4〜5と同じ操作をして消去します。**

全画像を消去する

すべての画像を消去することができます。

1. **PLAYモードにします。**
2. **【MENU】を押します。**
3. **"消去"→"全画像"と選び【シャッター】を押します。**
4. **「表示されている画像を消去する」(83ページ)の手順4〜5と同じ操作をして消去します。**

画像の管理について

本機では画像の撮影や再生の他、画像プリント時の枚数指定等や画像の消去防止の設定ができます。

フォルダの分類について

本機はメモリーカード内に、フォルダ（ディレクトリ）を自動的に作成します。

メモリーカード内のフォルダについて

撮影した画像は月日を名前としたフォルダの中に自動的に記録されます。フォルダは最大900作成されます。フォルダ名は次の通りです。

例：100（連番）、7月19日撮影

各フォルダには最大250個の画像ファイルが登録でき、251枚以上撮影した場合は、次の連番のフォルダが自動的に作成されます。メモリーカードにはさまざまな制御用ファイルが記憶されていますが、画像ファイルは次の通りです。

例：11月7日の26番目に撮影した画像

- メモリーカード内に保存できるフォルダ数、ファイル数はメモリーカードの容量や画質によって異なります。
- パノラマファイルは通常の画像ファイル数枚を1グループとして保存されています。
- メモリーカード内の詳しいディレクトリ構造に関しては「メモリーカード内のディレクトリ構造」（102ページ）をご覧ください。
- 他のカメラで撮影したり、パソコンから画像をコピーして1フォルダ中に251枚以上画像ファイルが存在する場合は250枚目までしか再生されません。ただし、画像を消去した場合251枚目以降の画像が繰り上がって表示されます。

再生したいフォルダを選択する

1. **PLAYモードにします。**
2. **【　】を押します。**
3. **再生したいフォルダを選び【シャッター】を押します。**
   - 選択したフォルダの最初の画像が表示されます。

撮影した画像の消去防止をする(メモリープロテクト)

大事な画像を誤って消去してしまうことを防止する機能（メモリープロテクト）がついています。メモリープロテクトされた画像は、消去の操作（83ページ）をしても消えることはありません。メモリープロテクトのかけかたには、1画像単位、フォルダ単位、全画像の3通りがあります。

1画像単位で消去防止する

1. **PLAYモードにします。**
2. **【MENU】を押します。**
3. **"プロテクト"→"選択画像"と選び【シャッター】を押します。**
4. **【+】または【−】でメモリープロテクトしたい画像を表示させます。**
5. **【シャッター】を押して消去防止したい画像に"　"を表示させます。**

- メモリープロテクトを解除する場合は　を消してください。
- 他の画像についても設定を行なう場合は手順4〜5を繰り返してください。

6. **【　】を押します。**

フォルダ単位で消去防止する

1. **PLAYモードにします。**
2. **【MENU】を押します。**
3. **"プロテクト"→"フォルダ画像"と選び【シャッター】を押します。**
4. **【+】または【−】でメモリープロテクトしたいフォルダを表示させます。**
5. **【シャッター】を押して消去防止したいフォルダに　を表示させます。**

- メモリープロテクトを解除する場合は　を消してください。
- 他のフォルダについても設定を行なう場合は手順4〜5を繰り返してください。

6. **【　】を押して設定を終了します。**

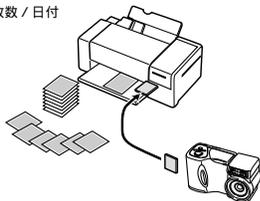
全画像を消去防止する

1. **PLAYモードにします。**
2. **【MENU】を押します。**
3. **"プロテクト"→"全画像"と選び【シャッター】を押します。**
4. **メモリープロテクトの設定を選び【シャッター】を押します。**
   オン：すべての画像をメモリープロテクトします。
   オフ：すべての画像のメモリープロテクトを解除します。

DPOF機能について

DPOF（Digital Printer Order Format）とはデジタルカメラで撮影した中からプリントしたい画像や枚数などの設定情報をメモリーカードなどの記録媒体に記録するためのフォーマットです。メモリーカードを通じてDPOF対応の家庭用プリンターやサービスラボでプリントすることができます。

本機では撮影された画像ファイル名などを意識することなく、【液晶モニター】で確認しながらプリントしたい画像の設定を行なうことができます。

- 設定可能な内容
  画像／枚数／日付

1画像単位で印刷の設定をする

1. PLAY**モードにします。**

2. 【MENU】**を押します。**

3. **“ DPOF ”→“ 選択画像 ”と選び【シャッター】を押します。**

4. **【＋】または【－】で印刷したい画像を表示させます。**

5. **印刷の設定を行ないます。**

【SHIFT INFO】／【⚡ 📁】：
印刷する枚数が設定できます。🖶を表示させた画像が印刷されます。
- 印刷を解除する場合は【SHIFT INFO】を押して🖶を消してください。

【❀/∞/MF ▪】：
日付の有無が設定できます。📅を表示させると日付入りで印刷されます。
- 他の画像についても設定を行なう場合は手順4～5を繰り返してください。

6. **【⏲ 🗑】を押します。**

フォルダ単位で印刷の設定をする

1. PLAY**モードにします。**

2. 【MENU】**を押します。**

3. **“ DPOF ”→“ フォルダ画像 ”と選び【シャッター】を押します。**

4. **【＋】または【－】で印刷したいフォルダを表示させます。**

5. **印刷の設定を行ないます。**
- 「1画像単位で印刷の設定をする」（89ページ）の手順5と同様に操作します。

6. **【⏲ 🗑】を押します。**

全画像に印刷の設定をする

1. PLAY**モードにします。**

2. 【MENU】**を押します。**

3. **“ DPOF ”→“ 全画像 ”と選び【シャッター】を押します。**

4. **印刷の設定を行ないます。**

【SHIFT INFO】／【⚡ 📁】：
印刷する枚数が設定できます。
- 印刷を解除する場合は【SHIFT INFO】を押して枚数を“ 0枚 ”にしてください。

【❀/∞/MF ▪】：
日付の有無が設定できます。“ オン ”を表示させると日付入りで印刷されます。

5. **【⏲ 🗑】を押します。**

その他の設定について

画面表示のオンオフ

【液晶モニター】に表示される内容（23ページ）のオンオフができます。オンオフができるのは次の内容です。

撮影モード、撮影可能枚数、画像のサイズ、画質、プロテクト表示、フォルダ名、ファイル番号、バッテリー残量表示

1. REC**モードまたは**PLAY**モードにします。**

2. 【MENU】**を押します。**

3. **“ 画面表示 ”を選び【シャッター】を押します。**

メニューのたどりかた：
RECモード時：“ 機能 ”→“ 設定 ”→“ 画面表示 ”
PLAYモード時：“ 設定 ”→“ 画面表示 ”

4. **設定内容を選び【シャッター】を押します。**
入：画面表示が表示されます。
切：画面表示が表示されます。

表示言語を切り替える

画面のメッセージを日本語と英語表示の2つから選ぶことができます。

1. REC**モードまたは**PLAY**モードにします。**

2. 【MENU】**を押します。**

3. **“ Language/言語 ”を選び【シャッター】を押します。**

メニューのたどりかた：
RECモード時：“ 機能 ”→“ 設定 ”→“ Language/言語 ”
PLAYモード時：“ 設定 ”→“ Language/言語 ”

4. **設定内容を選び【シャッター】を押します。**
English：画面のメッセージが英語で表示されます。
日本語：画面のメッセージが日本語で表示されます。

操作音のオンオフ

操作音のオンオフを切り替えることができます。

1. REC**モードまたは**PLAY**モードにします。**

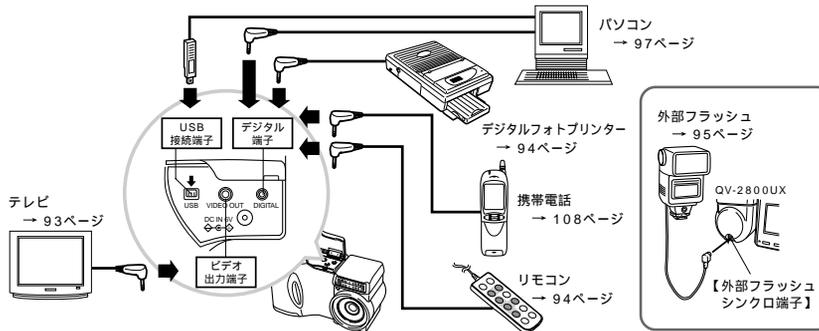
2. 【MENU】**を押します。**

3. **“ 操作音 ”を選び【シャッター】を押します。**

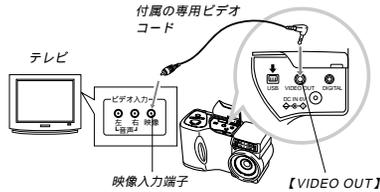
メニューのたどりかた：
RECモード時：“ 機能 ”→“ 設定 ”→“ 操作音 ”
PLAYモード時：“ 設定 ”→“ 操作音 ”

4. **設定内容を選び【シャッター】を押します。**
入：操作音がでます。
切：操作音がでません。

他の機器との接続

本機は、接続用の端子として【VIDEO OUT】（ビデオ出力端子）、【DIGITAL】（デジタル端子）、【USB】（USB接続端子）の3つを備えています。テレビやビデオ、パソコンなどさまざまな機器と接続して使用することができます。またQV-2800UXは【外部フラッシュシンクロ端子】を備えていますので、市販の外部フラッシュを増設することができます。

重要!
- 接続は必ず本機と外部機器の電源を切った状態で行なってください。
- 接続する際は接続する外部機器の取扱説明書もあわせてお読みください。
- テレビやパソコンのCRTに同一の画像を表示して放置しておくことはおやめください。残像現象（画面焼け）をおこす場合があります。
- 本機ではケーブルを通じて他のカシオデジタルカメラへ画像を送ることはできません。

テレビに画像を映し出す

本機で撮影した内容や撮影中の表示をテレビの画面に映すことができます。テレビの画面に映すには、本機と映像入力端子を備えたテレビを付属の専用ビデオコードで接続します。

1. 付属の専用ビデオコードで本機とテレビを接続します。
2. テレビの映像入力を「ビデオ入力」に切り替えます。
3. 以降、本機で再生や撮影の操作を行なってください。

重要! • 【液晶モニター】に表示されるアイコンなどはそのままテレビ画面に表示されます。

ビデオ出力の方式を変更する場合

本機はビデオ出力の方式に合わせて、設定を変更することができます。ビデオ出力の方式は次の2種類です。

NTSC：日本やアメリカなどで使用している方式です。
PAL：ヨーロッパなどで使用している方式です。

重要! • PALを選んだときはビデオ出力時に本機の【液晶モニター】は消灯します。

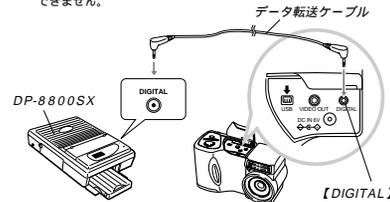
1. **RECモードまたはPLAYモードにします。**
2. **【MENU】を押します。**
3. **“ビデオ出力”を選び【シャッター】を押します。**

   メニューのたどりかた：
   RECモード時：“機能”→“設定”→“ビデオ出力”
   PLAYモード時：“設定”→“ビデオ出力”

4. **“NTSC”または“PAL”を選び【シャッター】で設定します。**

デジタルフォトプリンターでプリントする

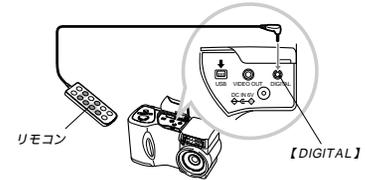
本機ではデジタルフォトプリンターと接続して撮影内容をプリントすることができます。

接続できる機種：DP-8800SX
※ 他のデジタルフォトプリンター、およびQVカラープリンターは使用できません。

1. **デジタルフォトプリンターに付属の専用データ転送ケーブルで、本機とデジタルフォトプリンターを接続します。**
2. **接続後【REC／PLAY】を“PLAY”に合わせ、電源を入れます。**
3. **以降、デジタルフォトプリンターの取扱説明書に従って操作してください。**

重要! • デジタルフォトプリンターでの印刷ではパノラマモードで撮影した画像は1枚ずつの画像のまま印刷されます。パノラマ画像の状態での印刷はできません。
• ムービーモードで撮影された画像は印刷できません。

リモコンを接続する

リモコンを使用して、本機を操作することができます。シャッター速度が遅い場合や望遠での撮影で三脚と併用することで、手ブレを防ぐことができます。また、プレゼンテーションなどの操作にもご利用できます。詳しくはリモコンに付属の取扱説明書をご覧ください。

接続できるリモコン：WR-1C（別売品）

• リモコンで操作できるボタンは下記の通りです。
【シャッター】、【ズームレバー】、【MENU】、【/∞/MF】、【+】【–】、【SHIFT INFO】、【】、【】

外部フラッシュの接続

本機は市販の外部フラッシュを接続することができます。内蔵のフラッシュより大きなガイドナンバー（明るい）のフラッシュを使用することにより、内蔵のフラッシュの届かない遠くの被写体を照らすことができます。（QV-2800UXのみ）

内蔵フラッシュのガイドナンバー：9（ISO 100/m）

使用できる外部フラッシュの条件

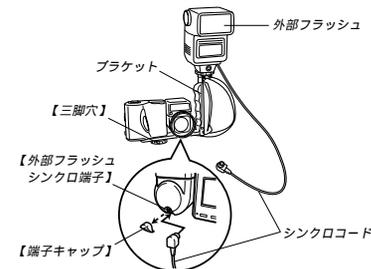
下記の条件を備えた市販のフラッシュを取り付けることができます。

• 【三脚穴】に固定できるシンクロコード付きグリップタイプのもの、または【三脚穴】に固定できるグリップ付きのブラケットとシンクロコード付きのフラッシュを組み合わせたもの。
• 照射角度が35mmフィルム換算で焦点距離40mm以上のレンズをカバーするもの。（ワイドコンバージョンレンズ非装着時）

※ 閃光時間の長いものはフラッシュの性能が充分に発揮できない場合があります。（リングフラッシュなど）
※ フラッシュによっては、デジタルカメラ本体と同等の絞り値とISO 感度に設定できない場合があります。この場合は設定値を近い値に設定し、外部フラッシュやデジタルカメラの絞りやISO感度を調整し、試し撮りをして、適正な明るさになるように設定値を選択してください。
※ ズーム機能付きフラッシュなどは、フラッシュの機能を充分に発揮できない場合があります。

外部フラッシュの取り付け

重要! • 外部フラッシュの取り付け、取り外しの際には、必ず外部フラッシュの電源とデジタルカメラの電源は切ってください。フラッシュが誤発光することがあります。

1. **外部フラッシュと光軸を合わせるためにレンズを正面に向けます。**
2. **外部フラッシュをブラケットに取り付け、デジタルカメラの【三脚穴】に固定します。**
   • グリップタイプのものは【三脚穴】に直接固定します。
3. **【端子キャップ】をはずし、シンクロコードを【外部フラッシュシンクロ端子】に接続します。**

• 取り外した【端子キャップ】は紛失しないようご注意ください。また、外部フラッシュを接続しない時は必ず【端子キャップ】をしてください。

4. **デジタルカメラの電源を入れ、デジタルカメラの設定を次のようにします。**

   露出モード：Mモード（マニュアル露出）
   シャッター速度は1/60秒程度、絞りは用途によって設定してください。
   ※ フラッシュの光が届かない部分をできるだけ明るく撮影したい場合は、デジタルカメラの絞りを開放（F3.2）に設定してください。
   ホワイトバランス：太陽光
   フラッシュモード：（発行禁止）

5. **外部フラッシュの電源を入れ、外部フラッシュ側の設定を、デジタルカメラで設定した絞り（F）値（67ページ）と感度（69ページ）に近い値に合わせます。**

   ※ 外部フラッシュのオート絞り（F）値やISO感度を本機の条件に近い設定をしても、撮影条件によっては適正な露出にならない場合があります。このような場合は外部フラッシュ側のオート絞り（F）値かISO感度の値などを調整してください。または、デジタルカメラの絞りや感度を調整してください。

重要! • 外部フラッシュは【外部フラッシュシンクロ端子】に接続していると強制的に発光します。フラッシュを使用しない時は、シンクロコードを本機からはずすか、外部フラッシュの電源スイッチを切ってください。
• 外部フラッシュの発光量は外部フラッシュ側で決定されます。デジタルカメラでは調整できません。撮影後【液晶モニター】で確認した露出が思わしくない場合は、外部フラッシュやデジタルカメラの設定値を調節して、撮影しなおしてください。
• 近距離での撮影では露出がオーバーになる場合があります。外部フラッシュやデジタルカメラの絞りやISO感度を調整するか、内蔵フラッシュで撮影してください。
• フラッシュモードが（発行禁止）以外に設定されているときは内蔵フラッシュも発光します。そのときデジタルカメラの感度は強制的に“ISO 80”になりますのでご注意ください。
• 外部フラッシュの取り付けが不十分ですと、誤発光したり、フラッシュが外れたりすることがあります。しっかりと取り付けるようご注意ください。
• デジタルカメラの表示している絞り（F）値は、光学ズームがワイド端（1倍）のときの値です。望遠側にするとレンズは多少暗くなります。光学ズーム使用時は必要に応じて外部フラッシュやデジタルカメラの絞りやISO感度を調整してください。
• ズームフラッシュを使用される場合、フラッシュの照射角度は焦点距離40mm以下に設定することをおすすめします。
• レンズを正面に向けても外部フラッシュと光軸が合わない場合があります。そのようなときは、外部フラッシュの照射角度を広めにしてご使用ください。
• デジタルカメラのISO感度と銀塩フィルムのISO感度は多少異なります。デジタルカメラのISO感度の数値を参考に外部フラッシュのISO感度の値を調整してご使用ください。

パソコンで画像を活用する

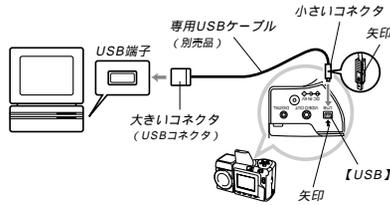
本機は付属のCD-ROMに収録の専用ソフト（Photo Loader）を使用して本機の撮影内容をデジタルデータの状態でパソコンに転送することができます。次の端子を備えたパソコンに接続することができます。

- Windowsの場合
  USB端子での接続
  RS-232C端子での接続
- Macintoshの場合
  USB端子での接続
  モデムポートまたはプリンタポート（RS-422端子）での接続

USB端子での接続（Windows／Macintosh）

USB端子を備えたパソコンと本機の【USB】（USB接続端子）を接続することで簡単にパソコンへのデータ転送ができます。接続には別売のUSBケーブルが必要です。初めにUSBドライバをパソコンにインストールすれば、専用のUSBケーブルでパソコンと本機を接続するだけで、パソコン上の外部記憶装置として認識することができます。具体的な接続方法、USBドライバのインストール方法、動作環境については専用ソフト取扱説明書（インストール編）をお読みください。

別売品：専用USBケーブル　QC-1U
※ USB接続キットQC-1Uに付属のUSBケーブルもご使用できます。

■接続のしかた

- 専用USBケーブルをカメラに接続するときは、本機の【USB】（USB接続端子）の矢印とケーブルの矢印の向きを合わせるようにしてください。
- USBコネクタは奥まで確実に差し込んでください。正しく接続されていないと、正常に動作しません。
- USBケーブルからは本機に電源は供給されません。必ず別売の専用ACアダプターを使用してください。
- USBケーブルは本機専用品です。他の市販USBケーブルは使用できません。

- 通信中にケーブルを抜かないでください。データが破壊される恐れがあります。
- RECモード、PLAYモードのどちらでもUSBでの通信ができます。
- USBでの通信が終了したらUSBケーブルを抜いてください。
- USBで通信をしている状態では本機の電源は切れません。USBケーブルを抜いた後に本機の電源を切ってください。

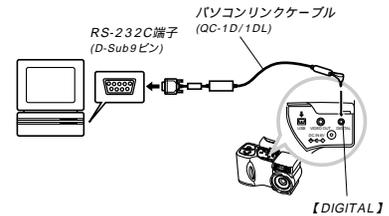
その他の端子での接続

本機の【DIGITAL】（デジタル端子）を通して撮影内容をパソコンにデータ転送することができます。接続には別売のパソコンリンクケーブルと付属のCD-ROMに収録の専用ソフト（Photo Loader）が必要です。使用するパソコンリンクケーブルは接続するパソコンの端子の形状によって異なります。ここではパソコンリンクケーブルの接続方法を説明します。専用ソフトのインストール方法については別紙の「専用ソフト取扱説明書（インストール編）」をお読みください。

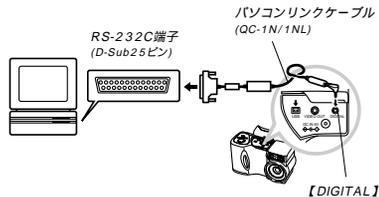
■Windowsの場合

RS-232C端子（D-Sub9ピン）を持ったパソコンの場合

IBM PC/AT互換機などの機種やNEC PC-9801/9821シリーズの一部の機種で、D-Sub9ピンのRS-232C端子を備えたパソコンとの接続はこの方法となります。下記のパソコンリンクケーブルでパソコンのD-Sub9ピンと【DIGITAL】(デジタル端子)を接続します。

必要なパソコンリンクケーブル：QC-1D/1DL（別売）

RS-232C端子（D-Sub25ピン）を持ったパソコンの場合

NEC PC-9801/9821シリーズなどの機種で、D-Sub25ピンのRS-232C端子を備えたパソコンとの接続はこの方法となります。下記のパソコンリンクケーブルでパソコンのD-Sub25ピンと【DIGITAL】(デジタル端子)を接続します。

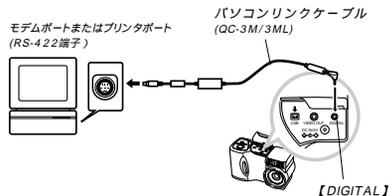
必要なパソコンリンクケーブル：QC-1N/1NL（別売）
※ PC98-NXシリーズにはIBM PC/AT互換機用のパソコンリンクケーブル（QC-1D/1DL）をご使用ください。

- パソコン側のRS-232C端子がハーフピッチ14ピン（ノートパソコンに多いタイプです）の場合は、市販のRS-232Cケーブル（ストレート結線タイプ・ハーフタイプ14ピンオス⇔D-Sub25ピンメス）が別途必要です。

■Macintoshの場合

モデムポートまたはプリンタポート（RS-422端子）を備えたPower MacintoshまたはPower Book G3シリーズ、およびPower Book 2400／3400シリーズの場合

これらの機種は下記のパソコンリンクケーブルでパソコンのモデムポートまたはプリンタポートと【DIGITAL】(デジタル端子)を接続します。

- Power Book 2400／3400シリーズではQC-2Mは使用できません。必ずQC-3M/3MLを使用してください。
- iMacやiBookなどモデムポートまたはプリンタポート（RS-422端子）を備えていないMacintoshではパソコンリンクケーブルでの接続はできません。

必要なパソコンリンクケーブル：QC-3M/3ML（別売）

重要!
- 本機とパソコンの接続を行なう時は必ず本機、接続するパソコン、およびパソコンにつながっているすべての周辺機器（モニターやハードディスクなど）の電源を切った状態で行なってください。
- 本機とパソコンを接続した後、本機の【REC／PLAY】を“PLAY”に合わせてから【POWER ON/OFF】で電源を入れてください。“REC”ではパソコンと通信することはできません。
- 通信中にケーブルの抜き差しを行なわないでください。ソフトが正常に動作しなくなるばかりでなく、データが破壊されたり、本機やパソコンの故障の原因となることがあります。
- パソコンとの通信を行なう際、残り少ない電池で本機を使用しますと、画像データの通信中に電源が切れる可能性があります。パソコンとの通信には専用ACアダプター（別売品）をお使いください。
- 別売のパソコンリンクソフト（LK-1/LK-10NC/LK-10DV/LS-1W/LS-7W/LS-8M）では動作しません。
- 専用ソフト（Photo Loader）の動作環境についてはソフトの取扱説明書をご覧ください。

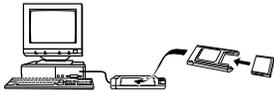
パソコンでメモリーカードを活用する

パソコンとの画像のやりとりをメモリーカードから直接行なうことができます。また、付属のソフト（Photo Loader）を使用して、撮影内容をパソコンに自動的に保存することもできます。パソコンの機種によって接続方法が異なります。代表的な接続方法は次の通りです。

- コンパクトフラッシュカードスロットのある機種
  コンパクトフラッシュカードを直接差し込みます。
- PCカードスロットのある機種
  別売のPCカードアダプター<CA-10>を使用します。具体的な使用方法はPCカードアダプターとパソコンに付属の取扱説明書を参照ください。

• 前記以外の機種

1） 市販のコンパクトフラッシュカード用リーダー／ライターを使用します。
具体的な使用方法はコンパクトフラッシュカード用リーダー／ライターに付属の取扱説明書を参照ください。

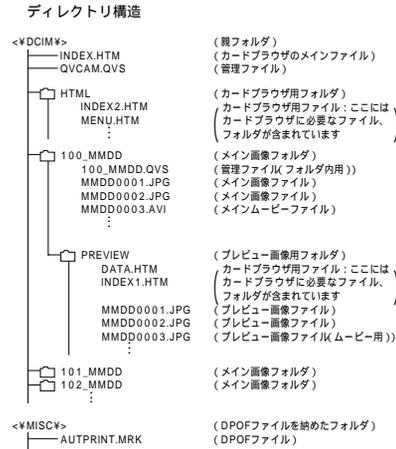
2） 市販のPCカード用リーダー／ライターと別売のPCカードアダプター<CA-10>を使用します。
具体的な使用方法はPCカード用リーダー／ライターとPCカードアダプターに付属の取扱説明書を参照ください。

メモリーカード内のデータについて

本機で撮影された画像やその他のデータは、DCF（Design rule for Camera File system）規格に準拠した方法でメモリーカードへ保存されます。DCF規格とは、画像ファイルと画像に関連するファイルをデジタルカメラと関連機器の間で簡単に交換することを目的とした規格です。

DCF規格について

DCF規格対応の機器（デジタルカメラやプリンターなど）の間で画像の互換性があります。画像ファイルのデータ形式やメモリーカード内のディレクトリ構造に規定がありますので、本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のカメラで見たり、この規格対応の他社のプリンターで印刷したりすることが可能です。逆にDCF規格対応の他社のデジタルカメラの画像も本機で見ることができます。本機では画像ファイルの管理に役立てるため、画像フォルダ名と画像ファイル名に日付を使用しています（86ページ）。

メモリーカード内のディレクトリ構造

■ディレクトリ構造

■フォルダ／ファイルの内容

- 親フォルダ
  デジタルカメラで扱うファイル全てを収めたフォルダです。
- カードブラウザメインファイル
  カードブラウザ機能で使用する表紙ファイルです。このファイルをWebブラウザソフトで開くと画像の一覧表が表示されます。
- 管理ファイル
  フォルダの管理や画像の順番などの情報が記載されているファイルです。
- カードブラウザ用フォルダ
  カードブラウザ機能で使用するファイルを収めたフォルダです。
- カードブラウザ用ファイル
  カードブラウザ機能で使用するファイルです。
- メイン画像フォルダ
  デジタルカメラで撮影した画像ファイルを収めたフォルダです。
- メイン画像ファイル
  デジタルカメラで撮影した画像ファイルです。
- メインムービーファイル
  デジタルカメラで撮影したムービーファイルです。
- プレビュー画像用フォルダ
  プレビュー画像を収めたフォルダです。
- プレビュー画像ファイル
  デジタルカメラで撮影した画像ファイルやムービーファイルと同時に記録されるサイズの小さな画像ファイルです。カメラ内での一時的な再生画面や、カードブラウザ機能の一覧表示に使用されます。
- DPOFファイルを収めたフォルダ
  DPOFファイルなどを収めたフォルダです。

参考 • メモリーカード内のディレクトリ構造は「カードブラウザ（HTMLファイル）機能」（104ページ）によって多少異なります。

このデジタルカメラで扱える画像ファイル

- QV-2300UXまたはQV-2800UXで撮影した画像ファイル
- DCF規格に対応している画像ファイル
- 画像サイズが横1600pixels以下かつ縦1200pixels以下の画像ファイル
- 画像ファイルサイズが1MB以下の画像ファイル

※ただし、DCF規格の機能で使用できないものもあります。

パソコン上でメモリーカードを扱うときの注意点

- 本機では管理ファイルにて画像ファイルなどの順番、属性を管理しています。従って、パソコン上でメモリーカード内のファイルを更新したり削除すると、管理ファイルの内容と画像ファイルの順番、属性との整合性がなくなり、メモリーカードをデジタルカメラに戻したときに画像の順番が入れ替わったり、パノラマ画像のグループが解除されたり、ページの送り／戻しが遅くなったりすることがあります。
- メモリーカードの内容をパソコンのハードディスクやフロッピーディスク、MOディスクなどに保存する際は“DCIM”フォルダごと保存し、その後パソコン上では管理ファイル（〜QVS）を更新したり削除しないでください。その際“DCIM”フォルダの名前を年月日などに変えておくと、あとで整理するときに便利です。ただし、パソコンのハードディスクなどに保存したファイルを再度メモリーカードに戻して本機で再生する場合は、フォルダ名をパソコン上で“DCIM”に戻してからご使用ください。本機では“DCIM”以外の名前のフォルダは認識されません。“DCIM”フォルダ内の他のフォルダ名を変えた場合も同様です。元の名前に戻してから使用してください。
- 一度パソコンのハードディスクやフロッピーディスク、MOディスクなどにファイルを保存したあとのメモリーカードは、中のファイルをすべて削除するか、フォーマットしてからデジタルカメラでご使用になることをおすすめします。
- 本機で扱うメモリーカードは、ATAフォーマットで初期化されるため、Macintosh上ではメモリーカード内のすべてのファイルがテキストファイルとしてみなされます。MacintoshでファイルをD開くためにPC Exchangeでメモリーカード内の画像ファイル（〜.JPG）をJPEGファイルが開けるアプリーションに関連づけてください。

カードブラウザ（HTMLファイル）機能

カードブラウザ機能とはブラウザソフトで本機で撮影した画像を一覧表示したり、撮影データを表示できる機能です。

- 本機で作成したカードブラウザは次のWebブラウザでご覧になれます。ただし、動画を再生する場合はQuickTimeが必要です。

Microsoft Internet Explorer Ver4.01以上
Netscape Communicator Ver4.5以上

カードブラウザの種類を選ぶ

1. **RECモードまたはPLAYモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“カードブラウザ”を選び【シャッター】を押します。**

メニューのたどりかた：
RECモード時：“機能”→“設定”→“カードブラウザ”
PLAYモード時：“設定”→“カードブラウザ”

4. **カードブラウザのタイプを選びます。**

切　　：カードブラウザは作成されません。
タイプ1：撮影時の情報表示とスライドショー機能がついた高機能タイプ
- 高度なJava Scriptを使用しているので、Webブラウザのバージョンが限定されます。Microsoft Internet Explorer Ver4.01以上、Netscape Communicator Ver4.5以上で使用できます。

タイプ2：撮影時の情報表示と、軽快な画像確認が行なえるタイプです。
- Webブラウザのバージョンに限定されません。

タイプ3：スライドショー機能がついたビューアーに徹したタイプ

- 高度なJava Scriptを使用しているので、Webブラウザのバージョンが限定されます。Microsoft Internet Explorer Ver4.01以上、Netscape Communicator Ver4.5以上で使用できます。

タイプ4：軽快に画像確認が行なえるタイプ

- Webブラウザのバージョンに限定されません。

5.【シャッター】を押します。

- カードブラウザのタイプを選んだ場合、電源を切ったときに自動的にメモリーカード内の"DCIM"フォルダに"INDEX.HTM"ファイル、その他カードブラウザ用のファイルが作成されるようになります。
- 手順5操作で【シャッター】のかわりに【 】を押すとすぐにカードブラウザ用のファイルが作成されます。この時点で「しばらくお待ちください」と表示されますので、この表示が消えるまで電源を切らないでください。

参考
- 本機は電源を切るときにカードブラウザ用のファイルを作成しているためメモリーカード内の画像枚数が多いと、電源が切れるまでの時間がかかることがあります。カードブラウザ機能を通常使用しない場合は、カードブラウザ機能の設定を"切"にすることをおすすめします。"切"にすると電源が切れるまでの時間が速くなります。

重要!
- 本機ではカードブラウザ機能を設定している場合、電源を切ると【液晶モニター】は消灯しますが、【動作確認用ランプ】は数秒間点滅しています。この間は自動的にカードブラウザ用のファイルを作成しています。【動作確認用ランプ】が点滅中に次の操作を行なうと、カードブラウザ用のファイルが作成されないばかりでなく、画像データ等のメモリーカード内のデータが破壊される恐れがあります。下記の操作は絶対に【動作確認用ランプ】点滅中に行なわないでください。
  1）メモリーカードカバーを開ける
  2）ACアダプターを抜く
  3）電池をはずす
  4）その他異常操作
- 電池寿命末期やメモリーカードの容量が少ないときはカードブラウザ用のファイルが正常に作成されない場合があります。
- カードブラウザに表示される言語は表示言語の切り替え（91ページ）で設定された言語になります。

カードブラウザファイルを見るには

カードブラウザファイルはパソコンで使用しているWebブラウザで見ることができます。

1. パソコンにメモリーカード内のデータを読み込む、またはメモリーカードをパソコンに接続します。

- メモリーカード内のデータの読み込みかた、メモリーカードの接続のしかたは「パソコンで画像を活用する」（97ページ）、「パソコンでメモリーカードを活用する」（100ページ）、をご覧ください。

2. メモリーカード内の"DCIM"フォルダを開きます。

3. "INDEX.HTM"ファイルをWebブラウザで開きます。

- メモリーカード内の最初のフォルダーの画像が一覧表示されます。

フォルダ名　画像　ファイル名

4. インターネットのホームページを見る要領で下記の部分をクリックして操作します。

一覧表示：各フォルダ内の画像の一覧が表示されます。
情報表示：各画像の画像情報が表示されます。
AUTO（スライドショー）
：ディスプレイのサイズいっぱいに画像が表示されます。約5秒間隔で次の画像を表示します。
MANUAL（スライドショー）
：ディスプレイのサイズいっぱいに画像が表示されます。画像をクリックするごとに次の画像が表示されます。

- 一覧表示／情報表示に表示されている画像をクリックすると、640×480 pixelsの画像が表示されます。さらにその画面をクリックすると撮影したサイズそのままの大きさの画像が表示されます。

重要!
- スライドショーで開いた画像は元のサイズにかかわらず画面いっぱいに表示されます。
- "一覧表示"ではプレビュー画像ファイル（102ページ）を使用しています。他のカメラで撮影した画像やパソコンからコピーした画像については、プレビュー画像がないために表示されないことがあります。この場合には、その画像をカメラ内でページ送りをして一度カメラの【液晶モニター】に表示させると、自動的にプレビュー画像が作成されます。その後、カードブラウザを表示させると、一覧表示の画像が表示されるようになります。

一覧表示

情報表示

- 表示される画像情報の内容

項目	表示
ファイルサイズ	：File Size
画像サイズ	：Resolution
撮影画質	：Quality
撮影モード	：Recording mode
露出モード	：AE
測光方式	：Light metering
シャッタースピード	：Shutter speed
絞り	：Aperture stop
露出補正	：Exposure comp
測距方式	：Focusing mode
フラッシュモード	：Flash mode
シャープネス	：Sharpness
彩度	：Saturation
コントラスト	：Contrast
ホワイトバランス	：White balance
感度	：Sensitivity
フィルター	：Filter
色強調	：Enhancement
フラッシュ光量	：Flash Intensity
デジタルズーム	：Digital zoom
撮影日時	：Date
モデル名	：Model

5. カードブラウザを終了するには、Webブラウザを終了してください。

カードブラウザを保存するには

- 【USB】（USB接続端子）での接続やメモリーカードを直接読み込んだ場合は、メモリーカード内の"DCIM"フォルダごとパソコンのハードディスクや、フロッピーディスク、MOディスクなどに保存してください。その後は"DCIM"内のファイルを更新したり消去しないでください。新たに画像を加えたり、消去したりすると、カードブラウザが正常に表示されなくなることがあります。
- 専用ソフト（Photo Loader）を使用してもカードブラウザを保存することができます。詳しくはPhoto Loaderの取扱説明書をご覧ください。
- メモリーカードを再びデジタルカメラで使用するときは、以前のファイルをすべて消去するか、フォーマットしてから使うことをおすすめします。

携帯電話に画像を送る

本機と携帯電話を接続して、本機で撮影した画像を簡単に携帯電話へ送り、待受画面などに利用することができます。操作の方法や転送後の画像の利用方法等については、別売品の接続ケーブルに付属の取扱説明書や、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

使用できる携帯電話

使用可能な携帯電話は次の通りです。専用の携帯電話接続ケーブル（別売）で本機と携帯電話を接続します。

■使用可能な携帯電話

NTT DoCoMo：デジタル・ムーバ
D502i HYPER、D209i HYPER
cdmaOne　：C309H、C310T
（2000年10月現在）

■必要な別売品

携帯電話接続ケーブル（別売）：QM-2D（NTT DoCoMo用）
QM-1C（cdmaOne用）

重要!
- 携帯電話に転送した後の画像の利用方法は、接続した携帯電話により異なります。
- 使用できる携帯電話につきましてはカシオホームページ（http://www.casio.co.jp/）をご覧ください。

付録

メニュー一覧表

RECモード、PLAYモードのメニューに表示される項目の一覧表です。
- 下線の引いてある項目は工場出荷時に選択されている項目です。
- ショートカットの登録（76ページ）が可能な画面は○が印してあります。

RECモード

通常			
ポートレート			
風景			
夜景			
シーン			
ムービー			
ムービー（過去）			
パノラマ			
インターバル			
機能	サイズ／画像	1600×1200：高精細 1600×1200：標準 1600×1200：エコノミー 800×600　：高精細 800×600　：標準 800×600　：エコノミー	○

機能	感度	ISO 80／ISO 160／ISO 320		○
	フィルター	切／白黒／セピア／赤／緑／青／黄／ピンク／紫		○
	露出モード	P／A／S／M		○
	測光方式	マルチ／中央重点／スポット		○
	ホワイトバランス	オート／太陽光／日陰／電球／蛍光灯／マニュアル		○
	色協調	切／赤強調／緑強調／青強調／肌色強調		○
	グリッド表示	切／入		○
	フラッシュ光量	強／標準／弱		○
	シャープネス	ハード／標準／ソフト		○
	彩度	高／標準／低		○
	コントラスト	高／標準／低		○
	タイムスタンプ	切／年月日／日時分／年月日時分		○
	デジタルズーム	切／オート／2倍／4倍		○
	スリープ	切／30秒／1分／2分		○
	オートパワーオフ	2分／5分		○
	モードメモリ	撮影モード	切／入	○
		感度	切／入	○
		露出モード	切／入	○
		測光方式	切／入	○
		ホワイトバランス	切／入	○
		フラッシュ	切／入	○
		フォーカス方式	切／入	○
		デジタルズーム	切／入	○
		フラッシュ光量	切／入	○

機能	設定	画面表示	切／入	○
		カードブラウザ	切／タイプ1／タイプ2／タイプ3／タイプ4	○
		操作音	切／入	○
		日付表示スタイル	年月日／日月年／月日年	○
		日時設定	日時の設定	○
		Language／言語	日本語／English	○
		フォーマット	いいえ／はい	○
		ビデオ出力	NTSC／PAL	○
		リンク	切／モード1／モード2／モード3	○
		リセット	いいえ／はい	○

PLAYモード

拡大		
消去	選択画像	ページ選択
	フォルダ画像	いいえ／はい
	全画像	いいえ／はい
DPOF	選択画像	画像、枚数、日付
	フォルダ画像	フォルダ、枚数、日付
	全画像	枚数、日付
プロテクト	選択画像	画像選択、オフ／オン
	フォルダ画像	オフ／オン
	全画像	オフ／オン
スライドショー		
設定	画面表示	切／入
	カードブラウザ	切／タイプ1／タイプ2／タイプ3／タイプ4
	操作音	切／入
	日付表示スタイル	年月日／日月年／月日年
	日時設定	日時の設定
	Language／言語	日本語／English
	フォーマット	いいえ／はい
	ビデオ出力	NTSC／PAL
	リンク	切／モード1／モード2／モード3
	リセット	いいえ／はい

シーン撮影一覧表

シーン撮影モードに登録されているシーン一覧表です。

No.	シーン	備　考
1	風景と人物を写します	フレームが表示されます。（人物が左）
2	風景と人物を写します	フレームが表示されます。（人物が右）
3	アップを写します	フレームが表示されます。ズームを使うと背景がきれいにボケます。
4	バストアップを写します	フレームが表示されます。ズームを使うと背景がきれいにボケます。
5	ニーショットを写します	フレームが表示されます。ズームを使うと背景がきれいにボケます。
6	ツーショットを写します	フレームが表示されます。ズームを使うと背景がきれいにボケます。
7	花をアップで写します	マクロモードになり、彩度が高めに設定されます。
8	お花畑を写します	彩度が高めに設定されます。
9	森を写します	シャープネスがハード、彩度が高め、色強調が緑に設定されます。
10	紅葉を写します	シャープネスがハード、彩度が高め、色強調が赤に設定されます。
11	青空を写します	フォーカス∞、色強調が青に設定されます。
12	夕日を写します	フォーカス∞、フィルターが赤、ホワイトバランスが太陽光に設定されます。
13	明るい砂浜、海を写します	色強調が青に設定されます。
14	夜景を写します	シャッター速度が遅め、フォーカス∞、ホワイトバランスが太陽光に設定されます。手ブレ防止に三脚を用いて下さい。
15	夜景と人物を写します	シャッター速度が遅め、フラッシュがオン、ホワイトバランスが太陽光に設定されます。手ブレ防止に三脚を用いて下さい。（人物が左）
16	夜景と人物を写します	シャッター速度が遅め、フラッシュがオン、ホワイトバランスが太陽光に設定されます。手ブレ防止に三脚を用いて下さい。（人物が右）
17	花火を写します	絞り込んで、シャッター速度がバルブ、フォーカス∞、ホワイトバランスが太陽光に設定されます。手ブレ防止に三脚を用いて下さい。

No.	シーン	備　考
18	ライトの光跡を写します	絞り込んで、シャッター速度がバルブ、フォーカス∞、ホワイトバランスが太陽光に設定されます。手ブレ防止に三脚を用いて下さい。
19	水の流れを滑らかに写します	シャッター速度が遅めに設定されます。露出オーバーになる時は、ND フィルターを用いて下さい。
20	水の流れを止めて写します	シャッター速度が速めに設定されます。明るい場所でないと、露出アンダーになる場合があります。
21	動きを止めて写します	シャッター速度が速めに設定されます。明るい場所でないと、露出アンダーになる場合があります。
22	建物を写します	シャープネスがハードに設定されます。
23	食べ物を写します	マクロモードになり、彩度が高めに設定されます。
24	文字を写します	マクロモードになり、フィルターが白黒、シャープネスがハード、コントラストが高めに設定されます。
25	特殊効果1	フィルターが青に設定されます。
26	特殊効果2（夜のような雰囲気）	EV シフトを－側にして、フィルターが青に設定されます。
27	特殊効果3	コントラストが高め、フィルターが白黒に設定されます。
28	特殊効果4	コントラストが低め、フィルターがセピアに設定されます。
29	お好みの設定で撮影します。	新たに登録した設定を呼び出して、撮影します。
30	お好みの設定で撮影します。	新たに登録した設定を呼び出して、撮影します。
31	お好みの設定で撮影します。	新たに登録した設定を呼び出して、撮影します。

シーン撮影の設定内容

シーンNo.	設定内容														
	フォーカスモード	シャッター速度	絞り	EVシフト	感度	フィルター	露出モード	測光方式	ホワイトバランス	色強調	フラッシュ光量	シャープネス	彩度	コントラスト	フラッシュモード	フレーム
1	オートフォーカス	オート	オート	0	ISO 80	切	P	マルチ	オート	切	標準	標準	標準	標準	自動発光	あり
2	オートフォーカス	オート	オート	0	ISO 80	切	P	マルチ	オート	切	標準	標準	標準	標準	自動発光	あり
3	オートフォーカス	オート	オート	0	ISO 80	切	P	マルチ	オート	肌色	標準	ソフト	標準	標準	自動発光	あり
4	オートフォーカス	オート	オート	0	ISO 80	切	P	マルチ	オート	肌色	標準	ソフト	標準	標準	自動発光	あり
5	オートフォーカス	オート	オート	0	ISO 80	切	P	マルチ	オート	肌色	標準	ソフト	標準	標準	自動発光	あり
6	オートフォーカス	オート	オート	0	ISO 80	切	P	マルチ	オート	肌色	標準	標準	標準	標準	自動発光	あり
7	(マクロ)	オート	オート	0	ISO 80	切	P	マルチ	オート	切	弱	標準	高	標準	自動発光	なし
8	オートフォーカス	オート	オート	0	ISO 80	切	P	マルチ	オート	切	標準	標準	高	標準	自動発光	なし
9	オートフォーカス	オート	オート	−0.7	ISO 80	切	P	中央重点	オート	緑	標準	ハード	高	標準	自動発光	なし
10	オートフォーカス	オート	オート	0	ISO 80	切	P	マルチ	オート	赤	標準	ハード	高	標準	自動発光	なし
11	(無限遠)	オート	オート	0	ISO 80	切	P	マルチ	オート	青	標準	標準	標準	標準	自動発光	なし
12	(無限遠)	オート	オート	0	ISO 80	赤	P	マルチ	太陽光	切	標準	標準	高	標準	自動発光	なし
13	オートフォーカス	オート	オート	＋0.7	ISO 80	切	P	中央重点	オート	青	標準	標準	標準	標準	自動発光	なし
14	(無限遠)	オート	オート	0	ISO 160	切	P	中央重点	太陽光	切	標準	標準	標準	標準	(発光禁止)	なし
15	オートフォーカス	オート	オート	0	ISO 80	切	P	中央重点	太陽光	切	標準	標準	標準	標準	(強制発光)	あり
16	オートフォーカス	オート	オート	0	ISO 80	切	P	中央重点	太陽光	切	標準	標準	標準	標準	(強制発光)	あり
17	(無限遠)	BULB	絞り込み	0	ISO 80	切	M	中央重点	太陽光	切	標準	標準	標準	標準	(発光禁止)	なし
18	(無限遠)	BULB	絞り込み	0	ISO 80	切	M	中央重点	太陽光	切	標準	標準	標準	標準	(発光禁止)	なし
19	オートフォーカス	1/30	オート	0	ISO 80	切	S	中央重点	オート	切	標準	標準	標準	標準	(発光禁止)	なし
20	オートフォーカス	1/1000	オート	0	ISO 80	切	S	中央重点	オート	切	標準	ハード	標準	標準	自動発光	なし
21	オートフォーカス	1/1000	オート	0	ISO 80	切	S	中央重点	オート	切	標準	標準	標準	標準	自動発光	なし
22	オートフォーカス	オート	オート	0	ISO 80	切	P	マルチ	オート	切	標準	ハード	標準	標準	自動発光	なし
23	(マクロ)	オート	オート	0	ISO 80	切	P	マルチ	オート	切	弱	標準	高	標準	自動発光	なし
24	(マクロ)	オート	オート	＋1	ISO 80	白黒	P	中央重点	オート	切	標準	ハード	標準	高	(発光禁止)	なし
25	オートフォーカス	オート	オート	0	ISO 80	青	P	マルチ	オート	切	標準	標準	標準	標準	自動発光	なし
26	オートフォーカス	オート	オート	−2	ISO 80	青	P	中央重点	オート	切	標準	標準	標準	標準	自動発光	なし
27	オートフォーカス	オート	オート	0	ISO 80	白黒	P	マルチ	オート	切	標準	標準	標準	高	自動発光	なし
28	オートフォーカス	オート	オート	0	ISO 80	セピア	P	マルチ	オート	切	標準	標準	標準	低	自動発光	なし
29																
30																
31																

各モードの設定内容

各撮影モードで設定可能な機能

各撮影モードでの設定項目に関する一覧表です。

○：設定可　△：一部設定可　－：設定不可

		シャッター半押し		フラッシュモード	セルフタイマー	オートフォーカスフレーム表示
		フォーカスロック	露出ロック			
撮影モード	通常	○	○	○	○	○
	ポートレート	○	○	○	○	○
	風景	○	○	○	○	○
	夜景	○	○	○	○	○
	シーン	○	○	○	○	○
	ムービー（通常）	×（追従）	×（追従）	×（発光禁止）	○	×
	ムービー（過去）	×（追従）	×（追従）	×（発光禁止）	×	×
	パノラマ	○	○	○	○	○
	インターバル	○	○	○	×	○
露出モード	Pモード	○	○	○	○	○
	Aモード	○	○	○	○	○
	Sモード	○	○	○	△1	○
	Mモード	○	○	○	△1	○

撮影モードと露出モードの併用

各撮影モードと露出モードの併用に関しての一覧表です。

○：併用可　△：一部併用可　－：併用不可

		露出モード			
		Pモード	Aモード	Sモード	Mモード
撮影モード	通常	○	○	○	○
	ポートレート	○	○	○	○
	風景	○	○	○	○
	夜景	○	○	○	○
	シーン	○	○	○	○
	ムービー（通常）	○	○	×	×
	ムービー（過去）	○	○	×	×
	パノラマ	○	○	○	○
	インターバル	○	○	△2	△2

△1：セルフタイマー使用時はシャッター速度を“BULB”に設定できません。あらかじめ“BULB”に設定していた場合は、セルフタイマーが使用できません。

△2：インターバルモード使用時はシャッター速度を“BULB”に設定できません。あらかじめ“BULB”に設定していた場合は“1秒”になります。

故障とお思いになる前に

現象と対処方法

	現　象	考えられる原因	対　処
電源について	電源が入らない。	1）電池が正しい向きに入っていない。 2）電池が消耗している。 3）本機専用以外のACアダプターを使用している。	1）電池を正しい向きに入れる（→30ページ）。 2）新しい電池と交換する（→30ページ）。 3）本機専用のACアダプター（AD-C620J）を使用する。
	電源が勝手に切れた。	1）オートパワーオフが働いた（→35ページ）。 2）電池が消耗している。 3）レンズキャップをレンズに取り付けたまま、RECモードで電源を入れた。	1）再度電源を入れ直す。 2）新しい電池と交換する（→30ページ）。 3）レンズキャップをはずしてから再度電源を入れ直す。
	【液晶モニター】に“電池消耗マーク”が表示された。	電池が切れる寸前である。	新しい電池と交換する（→30ページ）。
撮影について	【シャッター】を押しても撮影できない。	1）【REC／PLAY】が“PLAY”（再生）の位置になっている。 2）【フラッシュ】充電中である。 3）“メモリーがいっぱいです”と表示されている。 4）メモリーカードが入っていない。	1）“REC”の位置に合わせる。 2）【フラッシュ】の充電が終わるのを待つ。 3）いらない画像を消去する。または、別のメモリーカードをセットする。 4）メモリーカードをセットする。
	オートフォーカスなのにピントが合わない。	1）【レンズ】が汚れている。 2）被写体が【オートフォーカスフレーム】の中央にない。 3）ピントの合いにくい被写体である。 4）手ぶれをしている。	1）【レンズ】をきれいにする。 2）被写体を【オートフォーカスフレーム】の中央に合わせる。 3）マニュアルフォーカスモードに切り替えて手動でピントをあわせる（→51ページ）。 4）三脚を使用してください。

	現　象	考えられる原因	対　処
撮影について	撮影した画像の被写体がボケている。	ピントが合っていない。	ピントを合わせたい被写体に【オートフォーカスフレーム】を合わせて撮影してください。
	セルフタイマーでの撮影の途中で電源が切れた。	電池が消耗している。	新しい電池交換する（→30ページ）。
	【液晶モニター】に表示される画像のピントがあまい。	1）マニュアルフォーカスモードでピント合わせがずれている。 2）被写体が風景や人物なのに、マクロモードになっている。 3）接写をしているのに、オートフォーカスモードになっている。	1）ピントをあわせる（→51ページ）。 2）風景や人物を撮影する場合は、オートフォーカスモードにする。 3）接写撮影をする場合はマクロモードにする。
	撮影したのに保存されていない。	1）記録が終了する前に電池切れになった。 2）記録が終了する前に【メモリーカードカバー】を開けた。	1）バッテリー残量表示になったらすみやかに新しい電池と交換する。 2）記録が終了する前に【メモリーカードカバー】を開けないでください。
再生について	再生した画像の色が撮影時に【液晶モニター】で見た色と違う。	1）太陽光など光源からの直接光がレンズに当たっている。 2）撮影時に画質設定を変えて撮影している。	1）直接光がレンズに当たらないようにしてください。 2）同じ画質設定で撮影してください。
	9画面表示で【＋】【－】が働かない。	画面が停止した状態でないと【＋】【－】は働きません。	画面の停止中に【＋】【－】を押してください。

	現　象	考えられる原因	対　処
再生について	画像が表示されない。	DCF規格に準拠していない他のデジタルカメラで撮影したメモリーカードを使用している。	DCF規格に準拠していない他のデジタルカメラで撮影したメモリーカードは、ファイル管理形式が異なるため再生できません。
	テレビにつないでもテレビに本機の【液晶モニター】の表示内容が映らない。	1）本機とテレビを正しく接続していない。 2）テレビ側の設定が合っていない。 3）ビデオ出力の方式が違う。	1）専用ビデオコードを使って正しく接続する（→93ページ）。 2）テレビの取扱説明書をお読みになり、テレビの設定をビデオ入力に切り替えてください。 3）ビデオ出力の方式を変更する（→93ページ）。
消去について	“消去”を指定しても消去指定画面に移動できない。	記録されているすべての画像にメモリープロテクトがかかっている。	消去したい画像のメモリープロテクトを解除する（→87ページ）。
その他	PLAYモードでメニュー内で選択できない機能がある。	1）再生している画像に対して機能しないものは選択できません。 2）画像が1枚も入っていない。	1）表示している画像ではその機能を使うことはできません。 2）撮影してからお使いください。
	すべてのボタンやスイッチが動かない。	他の周辺機器との接続中に静電気や衝撃等により、回路内部に障害が発生した。	電池を取り出し、ACアダプターのプラグを本機から抜き、入れ直してから再度操作してみてください。
	【液晶モニター】がつかない。	1）スリープ機能が働いている。 2）USB通信中である。	1）スリープ機能を解除してください（→35ページ）。 2）メモリーカードにパソコンからのアクセスがないことを確認してUSBケーブルを抜いてください。

画面に表示されるメッセージ

圧縮に失敗しました	画像データ記録中に圧縮不可状態とき表示されます。撮影し直してください。
画像がありません	まだ何も撮影しいない状態、あるいは撮影内容をすべて消去して本機に一枚も無い状態です。
このカメラでは表示できません **ファイル形式が異なるかファイルが壊れています**	画像ファイルが壊れているか、本機で表示できないファイルを表示しようとしています。
電池がなくなりました	電池がなくなったときに表示されます。
フォーマットされていません　このカメラで使用するにはフォーマットする必要があります	メモリーカードがフォーマットされていないときに表示されます。メモリーカードのフォーマットを行なってください（38ページ）。
フォーマット → MENU **メモリーカードが異常です このカメラで使用するには電源を立ち上げ直してください　それでもこの表示がでるときはフォーマットしてください** **フォーマット** → MENU	メモリーカードに異常が発生した場合に表示されます。下記の操作で解除が可能です。 **重要!** • 下記の操作を行なうとメモリーカード内のすべての内容（ファイル）が消えてしまいます。下記の操作を行なう前に、パソコン等を利用してメモリーカード内の正常なファイルを保存してください。 1. **【MENU】を押します。** 2. **【＋】または【－】で“はい”を選び【シャッター】を押します。** • 操作を中止したい場合は【MENU】を押します。 • フォーマットの操作を行なうときは、ACアダプターを使用するか、新品のアルカリ電池、またはリチウム電池を使用してください。フォーマット中に電源が切れると正しくフォーマットが行なわれず、メモリーカードが正常に使用できない場合があります。 • フォーマットを終了すると“画像がありません”と表示されます。これは、フォーマットが正しく行なわれたことを示します。

“メモリーカードが入っていません”	本機にメモリーカードが入っていない場合に表示されます。メモリーカードを入れてください（36ページ）。
メモリーがいっぱいです 画質／サイズを切り替えるか不要な画像を消去してください	現在の画質／サイズでは撮影できなくなり、他の画質／サイズに切り替えるとまだ撮影できることを示しています。画質／サイズを切り替えるか、不要な画像を消去する操作を行なう必要があります（83ページ）。
メモリーがいっぱいです 不要な画像を消去してください	• 撮影可能枚数をを使い切りました。撮影を行ないたい場合は、不要な画像を消去する操作を行なう必要があります（83ページ）。 • メモリーカードにパソコンからデータを転送したときに、メモリーカード内の空き容量が少ないために“DCIM”フォルダやその他のファイル（102ページ）が作成できない場合表示されます。パソコン上でメモリーカード内の不要なファイルを削除して、空き容量を増やしてください。【MENU】を押してフォーマットすることもできますが、メモリーカード内のデータがすべて消えてしまいます。
LENS CAP!	レンズキャップをレンズに取り付けたままRECモードで電源を入れるとメッセージが表示されて自動的に電源が切れます。レンズキャップをはずしてから再度電源を入れ直してください（QV-2300UXのみ）

主な仕様／別売品

主な仕様

品名	デジタルカメラ	
機種名	QV-2300UX	QV-2800UX
記録画像ファイルフォーマット	静止画（パノラマ画像含む）：JPEG（Exif Ver.2.1）、DCF準拠（Design rule for Camera File system）、DPOF対応、動画：AVI（Motion JPEG）	
記録媒体	コンパクトフラッシュカード（Type Ⅰ / Ⅱ 対応）	
記録画素数	1600×1200 pixels 800×600 pixels	
記録枚数／画像ファイルサイズ（可変長）	静止画	

出力画素数(pixels)	撮影画質	ファイルサイズ	コンパクトフラッシュカード8MB	コンパクトフラッシュカード64MB	マイクロドライブ340MB
1600×1200	FINE	約850KB	約8枚	約71枚	約401枚
	NORMAL	約600KB	約11枚	約99枚	約562枚
	ECONOMY	約350KB	約19枚	約167枚	約943枚
800×600	FINE	約200KB	約33枚	約282枚	約1587枚
	NORMAL	約150KB	約43枚	約365枚	約2054枚
	ECONOMY	約120KB	約53枚	約443枚	約2494枚

ムービー

記録容量	約300KB／秒
撮影時間	一度に撮影可能なムービーの最長時間は16秒

	QV-2300UX	QV-2800UX
消去	表示されている画像、1画像単位、フォルダ単位、全画像一括消去可能（メモリープロテクト機能付き）	
撮像素子	1/2.7インチ正方画素原色CCD （総画素数：211万画素、有効画素数：202万画素）	
レンズ	F2.8－4.5　f=6.2－18.6mm （35mmフィルム換算 41～123mm相当）	F3.2－3.5　f=6－48mm （35mmフィルム換算 40～320mm相当）
ズーム	光学ズーム3倍／ デジタルズーム4倍 （併用時最大12倍）	光学ズーム8倍／ デジタルズーム4倍 （併用時最大32倍）
	※デジタルズーム4倍時、画像サイズは800×600pixelsになります。	
焦点調節	コントラスト方式オートフォーカス マニュアルフォーカス可能、マクロモード、無限遠モード、フォーカスロック付き	
撮影可能距離（レンズ表面より）	標準： 10cm～∞（ワイド端時） 50cm～∞（テレ端時） 接写： 1～50cm（光学ズーム1倍に固定） マニュアルフォーカス： 約1cm～∞（ワイド端時） 約50cm～∞（テレ端時）	標準： 40cm～∞（ワイド端時） 1m～∞（テレ端時） 接写： 1～50cm（光学ズーム1～1.6倍） マニュアルフォーカス： 約1cm～∞（ワイド端時） 約1m～∞（テレ端時）
露出制御	測光方式：　撮像素子によるマルチパターン測光／中央重点測光／スポット測光 制御方式：　プログラムAE、絞り優先AE、シャッター速度優先AE、マニュアル露出 露出補正：　－2EV～＋2EV（1/3EV単位）	
シャッター	CCD電子シャッター／メカシャッター併用 BULB、60～1/2000秒	
絞り	F2.8/5.6 自動切替式、 マニュアル切替可能	F3.2/4.8/8 自動切替式、 マニュアル切替可能
ホワイトバランス	自動／固定（4モード）、マニュアル切替可能	
セルフタイマー	作動時間10秒、2秒	

	QV-2300UX	QV-2800UX
内蔵フラッシュ	発光モード： 自動発光、発光禁止、強制発光、赤目軽減機能切替可能	
	フラッシュ撮影範囲：約0.5～2m	フラッシュ撮影範囲：約0.5～2.5m
撮影関連機能	一枚撮影、ムービー撮影、パノラマ撮影、風景撮影、夜景撮影、ポートレート撮影、セルフタイマー撮影、接写撮影、シーン撮影	
モニター	1.8型TFT低反射カラー液晶（HAST） 122.100(555×220)画素	
ファインダー	液晶モニター	
時計機能	クォーツデジタル時計内蔵日付・時刻：画像データと同時に記録 自動カレンダー：2049年まで	
入出力端子	デジタル入出力端子、外部電源端子、USB接続端子（専用ミニ端子）、ビデオ出力端子（NTSC／PAL標準方式準拠）、外部フラッシュ接続端子（QV-2800UXのみ）	
電源	乾電池×４（単３形アルカリ電池およびリチウム電池） 充電池×４（単３形ニッケル水素蓄電池（NP-H3）） 3Vリチウム電池パック（CR-V3P）×2 ACアダプター（AD-C620J） ACアダプターチャージャー（BC-3HA）	
電池持続時間	以下の電池持続時間は、標準温度（25℃）で使用した場合の電源が切れるまでの目安であり、保証時間ではありません。低温下で使うと、電池持続時間が短くなります。	

使 用 電 池	連続再生時	連続撮影時
単3形アルカリ電池 LR6	約180分	約100分 （約600枚）
単3形リチウム電池 FR6	約300分	約200分 （約1200枚）
リチウム電池パック CR-V3P	約380分	約260分 （約1560枚）
ニッケル水素蓄電池 NP-H3	約180分	約120分 （約720枚）

	QV-2300UX	QV-2800UX
	アルカリ電池、リチウム電池パックは松下電池工業（株）製、リチウム電池は富士写真フィルム（株）製の場合の数値です。電池持続時間はメーカーによって異なります。連続撮影枚数は、フラッシュを使用せずに撮影した場合の撮影可能枚数です。フラッシュの使用、電源のON/OFFなどの条件により数値は異なります。（詳細については30ページ以降をご覧ください。）	
消費電力	約5.3W	約5.8W
サイズ（突起部除く）	幅118mm×高さ67mm×奥行き54mm	幅121mm×高さ80.5mm×奥行き66mm（レンズを上に向けた状態）
質量	約245g（電池、付属品除く）	約295g（電池、付属品除く）
付属品	ストラップ、レンズキャップ、キャップホルダー、ソフトケース、ビデオコード、CD-ROM、アルカリ電池（LR６×４本）、取扱説明書（保証書付き）、専用ソフト取扱説明書（インストール編）、ソフトケース用ストラップ（QV-2800UXのみ）	

電源について

- 充電式電池は、別売品のニッケル水素蓄電池(Ni-MH)NP-H3をご使用ください。他の充電式電池については動作保証いたしかねます。
- 本機には時計専用の電池は入っておりません。単３形電池やACアダプターで電源が供給されていないと、約24時間で日時がリセットされますので、その場合は再度設定をしてください。（41ページ）

液晶パネルについて

- 液晶モニターに使用されている液晶パネルは、非常に高精度な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。

別売品

- コンバージョンレンズアダプター　LU-8A
- テレコンバージョンレンズ　LU-8T
- ワイドコンバージョンレンズ　LU-8W

※QV-2300UXではコンバージョンレンズの使用時にはコンバージョンレンズアダプターが必要です。

- ワイヤードリモコン　WR-1C
- コンパクトフラッシュカード　CF-8x　（8MB）
CF-16x　（16MB）
CF-32x　（32MB）
CF-48x　（48MB）
CF-64x　（64MB）
CF-128x　（128MB）
CF-192x　（192MB）
- PCカードアダプター　CA-10
- ACアダプター　AD-C620J
- ACアダプターチャージャー　BC-3HA
- ニッケル水素蓄電池／急速充電器セット　BC-1HB4
- ニッケル水素蓄電池（4本セット）　NP-H3P4
- USBケーブル　QC-1U
- パソコンリンクケーブル
NEC PC-9801/9821シリーズ用：　QC-1N/1NL
IBM PC/AT互換機／PC98-NXシリーズ用：QC-1D/1DL
Macintosh用：　QC-3M/3ML

※必ず、98ページの「その他の端子での接続」をお読みください。

- 携帯電話接続ケーブル
NTT DoCoMo用　QM-2D
cdmaOne用　QM-1C
- デジタルフォトプリンター　DP-8800SX

※他のデジタルフォトプリンターおよび、QVカラープリンターは使用できません。

カシオデジタルカメラに関する情報は、カシオホームページでもご覧になることができます。

http://www.casio.co.jp/